

(本校規則第四十八條參照)

- 第三、選科生入學試驗ノ科目ハ左ノ如シ
- 一、文科中ノ一科目若シハ數科目ヲ選フ者ニハ試問、國語、漢文、英語及ヒ所選ノ學科トス
但シ國語漢文ノミ若シハ其ノ一ノミヲ選フ者ニハ英語ノ試驗ヲ爲サス
- 二、理科中ノ一科目若シハ數科目ヲ選フ者ニハ試問、國語、英語、數學及ヒ所選ノ學科トス
但シ動物或ハ植物ヲ選フ者ニハ物理及ヒ圖畫ヲ以テ數學ニ代フ又手工ヲ選フ者ニハ英語及ヒ數學ノ試驗ヲ爲サス
- 三、體操ヲ選フ者ニハ試問、國語、及ヒ體操トス

(本校規則第四十九條參照)

參照

本校規則第六條乃至第十一條、第十八條、第十九條、第二十二條、第二十四條乃至第三十條、第三十二條乃至第四十條、第四十五條乃至第五十五條、舊式第二號、同第四號、同第八號、同第九號
訓令乙第十九號 明治二十八年五月八日

郡市役所
町村役場

小學校教員私宅ニ於テ教授時間外ニ其ノ生徒ヲ教授スルトキハ生徒心身ノ發達ヲ害スルノミナラス徒ラニ教授ノ標準ヲ高メ生徒管理上偏愛ノ嫌疑ヲ受クルニ至リ且教授ノ準備ヲ妨クルコト也カヲサルヘシ又教員小使等ニ於テ生徒若ハ父兄ノ贈遺ヲ受クルカ如キハ是亦生徒間ノ感情ヲ害シ一般就學ノ妨ケトナル等教育上弊害甚カラズ候條特ニ公立小學校ニ在テハ注意ヲ加ヘ嚴重ノ取締ヲナスヘシ

第六類

病院避病院及醫學校

乙第六十五號

明治十二年六月五日

郡區町村

本縣公立病院名稱ノ儀今般岡山縣病院ト更正候條此旨相違候事
告示第四拾九號 明治十五年四月廿五日

本縣醫學校ハ教官其人ヲ得教科校則等ノ完全スルヲ以テ本校卒業生徒ハ開業免狀授付ノ特典ヲ享コトナ
内務省ハ具申シ其許可ヲ得候條本校ニ於テ卒業スルノ生徒ハ別ニ内務省ノ試驗(明治十二年內務省)ヲ要セ
ス開業免狀交付可相成ニ付テハ醫家ノ子弟ハ勿論向來醫師ヲト欲スル者ハ爲心得此旨告示候事

岡山縣告示第二十七號 明治廿一年四月七日

今般當縣第三高等中學校醫學部ヲ設置相成タルコト付テハ本縣々立病院ニ於テ該部生徒實習ノ爲メ藥價并
入院料ヲ要セスシテ患者一日一百名ヲ限リ同院ニ於テ施療セシム就テハ自今尋常患者ニ就キ臨床講義ヲナ
サス

岡山縣告示第三拾七號 明治廿二年五月十一日

今般當縣病院內ニ衛生試驗所ヲ假設セシニ付地方衛生事務ニ係ル検査ニシテ一般令違ニ據ラス特ニ検査ヲ
願出ルモノハ當分ノ内飲水氷雪乳汁礦泉ノ類ニ限リ検査手数料ヲ納メシメ之ヲ施行ス但シ其検査手数料金
額又検査出願順序ハ左ノ如シ

検査手数料

一 飲水及氷雪

一 乳 汁

飲料適否鑑定

定量分拆

單筒ナル理學的検査并ニ定性分拆
定量分拆

金拾錢乃至五拾錢

金五拾錢乃至貳圓

金貳拾錢乃至壹圓
金五拾錢乃至貳圓

〔定性分析
定数分析〕

金貳拾錢乃至壹圓
金五拾錢乃至貳圓

第一項 検査ヲ受ケント欲スル者ハ其定性定量ノ區別願人ノ居住町村番邸氏名ヲ記シタル書面ニ現品ヲ添
ヘ第二部衛生課ヘ差出スヘシ

但書面ハ郵便ニ現品ハ通運ニ托スルモ妨ケナシ
第二項 検査物ノ容器ハ新ナル硝子瓶又ハ陶器ノ徳利ヲ豫メ其検査スヘキ液料ヲ以テ清潔ニ洗滌シテ用
フヘシ若シ他用ニ供シタル器物ヲ再用スルトキハ格別ニ注意シ充分清潔ニ洗滌スヘシ

第三項 検査物容器ノ栓ハ新ナルコルク桐杉等ヲ以テ密栓シ願主ニ於テ封印スヘシ氷雪ナレハ其容器ノ
蓋ヲ封印スヘシ

第四項 検査物ハ大約左ノ量ヲ差出スヘシ

- 一 飲 水 壹 升
- 一 氷 雪 八 百 目
- 一 乳 汁 三 合
- 一 鐵 泉 五 升 乃 至 七 升

第五項 検査済ノ通知ヲ受ケタルトキハ其指示サレタル検査手数料額ヲ現金又ハ郵便爲替ト爲シ左式ノ納
付証ト共ニ第二部衛生課ヘ納付スルモノトス

第 一 號
一 金
但

右納付候也

明治 年 月 日

何那區何町村
願人氏 名印

岡山縣第二部衛生課御中

第六項 検査成績書ハ検査手数料ノ受領証ト共ニ第二部衛生課ヨリ交付スルモノトス
訓令内第三十三号 明治二十四年十一月十日

和 氣 邑 久 見 嶋 上 道 磯 口 小 田
郡 役 所

常設避病院開閉手續

一 常設避病院ノ開閉ハ其所在地管轄郡長ニ於テ之ヲ取扱フ者トス 但當分ノ内上道郡三樞村網ノ濱避病院ハ
役所ニ於テ取 扱フモノトス 縣廳兒嶋郡甲ノ浦村南崎避病院ハ上道郡

二 常設避病院所在地及其近接地ニ於テ船舶検査施行ノ中ニ虎列刺患者ヲ發見シ隔離ヲ必要トスル場合ニ於
テハ郡長ハ所轄警察署長又ハ諸分署ト協議シ入院セシメタル後ニ知事ニ報告スヘシ

三 常設避病院所在地及其近接地ニ於テ虎列刺病蔓延ノ兆アリ患者ノ隔離ヲ必要トスル場合ニ於テハ郡長
ハ所轄警察署長又ハ分署長ト協議シ知事ニ具申シ其認可ヲ得テ該病院ヲ開クヘシ

四 常設避病院ヲ開キタルトキハ左ノ人員ヲ以テ取扱フヘシ
一 醫 師 一 名
一 事 務 掛 一 名

一看病婦 若干
一小使 若干

五郡長ニ於テ醫師ハ手當醫事務掛臨時適任者ヲ任用シ其氏名及日給額ヲ上申シ下命ヲ受其看病婦小使ハ申付タル上氏名及日給額ヲ縣廳ニ報告スヘシ

但醫師事務掛ハ入院患者ノ數ニ應ジ増員スルコトアルヘシ

六常設避病院管理方法及豫防消毒施行方ハ別ニ定ムル所ノ方法順序ニ依ルヘシ

七常設避病院經費ハ郡長之ヲ取扱ヒ明治二十年七月本縣甲三十五号達ニ依リ取扱フヘシ

八常設避病院ハ郡長ニ於テ監督シ其收入等ノ取締ヲ要スル場合ニ於テハ所轄警察長又ハ分署長ヘ照會シ巡査ノ派出ヲ要求スヘシ

九常設避病院ヲ閉鎖又ハ使用人員ヲ増減シタルトキハ其都度縣廳ニ報告スヘシ

但開院中ハ時々警察署ニ巡視ヲ要求スヘシ

岡山縣令第七号 明治廿五年二月三日

常縣々立病院管理方法縣會議決ヲ經別紙ノ通相定ム

岡山縣々立病院管理方法

第一項 岡山縣々立病院ハ縣知事之ヲ管理シ明治廿五年度ヨリ地方稅別途經濟トシ其收入ヲ以テ一切ノ支出ニ充ツルモノトス

第二項 縣立病院ノ收支豫算ハ毎年縣會ノ議決ヲ經テ之ヲ定メ其收支精算及資本金利殖精算共總テ其取扱順序ハ地方經濟取扱ノ規定ニ依準スヘキモノトス

第三項 一周年度ノ經費豫算以內ト雖トモ其收入ニ超過スル金額ハ之ヲ支出スルヲ得サルモノトス

第四項 縣立病院ノ資本金ハ明治十三年恩賜ノ衛生資金明治廿五年度ノ始メ現在額參千七拾貳圓六拾五錢

壹圓ヲ以テ基礎トシ尙經常費收支剩餘金アルトキハ其繰越金ノ内縣會ノ決議ヲ經組入蓄積シテ備フルモノトス

第五項 非常ノ事故ニ因リ止ムヲ得サル支出ヲ要スルトキハ資本金若クハ其利殖金ヲ以テ縣會決議ノ上之ニ充ツルコトヲ得

訓令乙第貳拾號

明治二十七年三月十三日

郡市役所 町村役場

傳染病豫防之儀ハ醫治ノ外隔離及ヒ火葬ヲ以テ最モ適切之取扱トナスハ勿論ノ處市町村未タ避病院並ニ火葬場ノ設備ナキヨリ一朝傳染病發生ニ際シ之レカ豫防ニ汲々タルモ既往ノ實驗ニ徴スルニ傳播ノ速カナル容易ニ其目的ヲ達スル能ハザルノヨナラス地方及ヒ市町村ノ經濟ニ於テ僅少ナラザル失費ヲ要シテ殆ント其効ヲ收ムル能ハス遺憾ノ至ニ堪ヘザルヲ以テ豫メ市町村ニ於テ獨立若クハ聯合ノ避病院及ヒ火葬場ヲ設備シ患者發生ニ際シ其處置ヲ週旋ナラシメザル豫計畫ヲ置クヘシ

岡山縣告示第八十七号 明治二十七年五月六日

岡山縣病院規則左ノ通相定ム

岡山縣病院規則

第一條 本院ハ汎ク患者ヲ診察治療シ併セテ第三高等中學校醫學部生徒ノ臨床實習ヲナス所トス

第二條 患者ヲ分テ私費及給費ノ二種トシ又之ヲ外來及入院ニ區別ス

第三條 私費患者ハ病院所定ノ雜價手術料及入院料等ヲ納メシメ給費患者ハ一切ノ費用ヲ官給ス

第四條 給費患者ハ第三高等中學校醫學部生徒ノ實地演習用ニ供ス

第五條 給費患者ハ一日平均百名以內トス

第六條 本院經費ノ收支ハ縣經濟ニ風スル規則ニ依ル

第七條 前諸項ニ關スル細則ハ院長之ヲ定ム

訓令乙第二十一号 明治二十八年五月十四日

郡市役所 町村役場

市町村ニ設置スヘキ避病院ハ左ノ各項ニ準據シ管理セシムヘシ

右訓令ス

市町村ニ設置スヘキ避病院管理方

- 第一 醫長ハ院内ノ醫務衛生事務ヲ掌理シ醫員以下看護人等ヲ監督スヘシ
- 第二 醫長ハ毎日一回以上回診シ治療並看護ノ方針ヲ醫員及看護人ニ指示スヘシ
- 第三 醫員ハ醫長ノ指揮ヲ承ケ治療其他患者ニ關スル事務ヲ擔當スヘシ
- 第四 調劑掛ハ醫長ノ指揮ヲ受ケ調劑ニ關スル一切ノ事務ヲ擔當スヘシ
- 第五 消毒ニ從事セシムル爲メ豫メ院内諸員ニ就キ消毒擔當者若干名ヲ定メ置クヘシ
- 第六 看護人ハ醫長及醫員ノ指揮ヲ承ケ懇切ニ患者ノ看護ヲ爲スヘシ
- 第七 醫員調劑掛事務員ハ交番宿直スヘシ看護人ハ院内ニ宿泊シ交番ヲ以テ通宵看護ニ從事スヘシ看護人ニシテ調劑所及附場ニ往復スルモノハ豫メ之ヲ定メ置キ其他ハ狹リニ出入セシムヘカラス
- 第八 入院患者ノ父母妻子兄弟等附添看護ヲ出願スルトキハ院務ニ妨ケナキ限ハ之ヲ許可スルコトヲ得但院内ノ諸規則醫長以下ノ指揮ヲ遵守セシメ且狹リニ外出ヲ許スヘカラス
- 第九 醫長醫員及看護人病室ニ入ルトキハ病室用衣ヲ被ヒ病室ヲ出テタルトキハ之ヲ脱スヘシ見舞人其他病室ニ出入スルトキハ本項ニ準シ病室用衣ヲ被ハシムヘシ
- 第十 消毒所居室汚物置場及焼却所ニ出入スルトキモ亦本項ニ準スヘシ
- 第十一 病室用衣ハ一週三回以上消毒ノ上之ヲ洗濯スヘシ若シ患者ノ排泄物ニ觸レタルトキハ其都度十分消毒ヲ爲スヘシ
- 第十二 患者運送ノ人夫及運搬ノ器具ハ十分消毒ヲ爲スヘシ
- 第十三 病室其他ニ於テ患者又ハ其被服履具器具等ニ觸接シタルトキハ速ニ手足其他觸接シタル部分ヲ二十倍ノ石炭酸水五十倍ノ格魯兒石灰水又ハ十倍ノ昇水(着色シタルモノ)ヲ以テ消毒スヘシ
- 第十四 飲料水及飲食物ハ必ス煮沸シタルモノヲ用ユヘシ
- 第十五 排泄物ハ必ス一定ノ容器中ニ取リ糞子排泄物量ニ倍ノ石灰乳(十倍ノ)ヲ混シ一時間以上放置スヘシ
- 第十六 石灰乳ニ代フルニ格魯兒石灰ヲ以テスルコトヲ得此場合ニ於テハ排泄物量約十五分ノ一ノ格魯兒石灰ヲ混シ十五分間放置スヘシ汚水ノ消毒モ亦之ニ準ス
- 第十七 患者ヲ恢復期患者室ニ移ストキハ豫メ相當ノ消毒ヲ爲スヘシ
- 第十八 患者全癒退院ノ際ハ先ツ十倍ノ昇水又ハ四十倍ノ石炭酸水ニテ全身ヲ拭淨シタル上入浴セシメ石鹼ヲ以テ身軀ヲ清洗シ然ル後衣服ヲ更ヘ退院セシムヘシ
- 第十九 患者ノ被服又ハ寐具器具其他病室汚染ノ疑アルモノハ消毒法ヲ行ヒタル後ニアラサレハ院外ニ持出ツルコトヲ禁スヘシ
- 第二十 患者ノ寢具衣類其他ノ布片ヲ消毒スルニハ蒸氣消毒又ハ煮沸消毒ヲ行フヘシ但同法ヲ行ヒ能ハサルトキハ二十倍ノ石炭酸水中ニ浸漬スヘシ
- 第二十一 草製ノ物品ハ二十倍ノ石炭酸水又ハ五十倍ノ格魯兒石灰水ヲ以テ拭淨スヘシ
- 第二十二 患者ノ排泄物ニ觸接セシ物品ハ成ルヘク之ヲ燒棄スヘシ
- 第二十三 床板、側壁及家具中木製及金屬製ノ部分其他之ト類似ノ物品ハ二十倍石炭酸水ヲ以テ濕シタル布片ヲ以テ拭淨スヘシ但床板、側壁等ヲ消毒スルニハ十倍ノ石灰乳ヲ用ニルモ可ナリ此場合ニ於テハ少クモ二時間放置シタル後洗滌スヘシ
- 第二十四 病室ハ消毒ヲ終リタル後成ルヘク二十四時間放置シ空氣ヲ流通セシムヘシ
- 第二十五 死者アルトキハ直チニ二十倍ノ石炭酸水ニ浸シタル布片ヲ以テ全身ヲ被包シ速ニ之ヲ屍室ニ移スヘシ
- 第二十六 火葬又ハ埋葬スル爲メ死骸ヲ他所ニ移ストキハ棺中ニ生石灰又ハ格魯兒石灰ヲ入レ其上ニ屍軀ヲ

死骸ノ運搬ハ可成未明又ハ夜間ニ於テスヘシ
 第廿五 院内ニハ瘧具其他必要ナル器具藥品等ヲ備置クヘシ
 院内ノ諸員及外來者ニ使用セシムル爲メ病室用衣ヲ備ヘ置クヘシ
 瘧疾ヲ用ヒサル場合ニ於テハ疊ノ上ニ油紙其他汚物滲透ノ虞ナキ物ヲ敷クヘシ
 訓令乙第四十一号 明治廿八年十一月九日

郡市役所
 町村役場

避病院ノ設置ニ關シテハ屢々訓令スル所アルニモ拘ハラズ葎未ダ其設備ヲ爲サ、ルモノ有之本年虎列拉
 病及赤痢病流行ニ際シテハ爲メニ豫防上ノ沮滯ヲ生シ隔離法ノ完全ヲ欠キタルノ例證甚シトモ今ヤ病勢
 漸ク衰退シ幸ニ終熄ノ狀ヲ呈スト雖也從來ノ經驗ニ徴シ他日更ニ疫癘ノ慘狀ヲ逞クスルコトアルヘキヤ必セ
 リ此際避病院ノ設置ハ將來ニ對シ畫策スヘキノ一大要務トス故ニ本年(五月)本縣訓令乙第十八号ニ依リ其
 人家稠密ナルノ地又ハ交通頻繁ナル町村ニ於テハ必ス本年度中ニ於テ相當ノ設置ヲ爲スヘシ其着手前ニ位
 置及構造圖面并ニ設計見積豫算書ヲ添ヘ落成期日ヲ豫定シ當廳ノ認可ヲ受ルヲ要ス

醫師 及 產婆

訓令乙第四十五号 明治廿八年十一月二十五日

郡市役所
 町村役場

市町村ニ於テ建設スヘキ避病院ノ敷地ヲ官林ニ於テ借用セントスルハ大林區署ヘ出願以前ニ其官林ノ豫
 定地ヲ詳記シ先ツ位置ノ適否ニ關シ市ハ直チニ町村ハ郡役所ヲ經由當廳ノ承認ヲ受クヘシ
 但シ現ニ借用出願中ニ係ルモノハ此際本文ノ手續ヲ爲スヘシ
 明治十三年一月廿四日

甲第九号

自今諸願屆書ニ添ヘキ醫案ノ儀ハ別紙書式ニ照準醫員ニ於テ調製致スヘク此旨布達候事
 但兵籍ニ係ル者ハ明治十二年(十一月)陸軍省布第二號中書式ノ通病院長又ハ衛生係ノ與書ヲ要スヘク且
 九年(九月)當縣乙第百五十一号達ハ廢シ候儀ト心得ヘシ

診 斷 書

岡山縣何郡區何町村何番屋敷住
 族職業戶主名何男

年号月日生
 當何月何年何ヶ月

右天寶強實ニシテ昔々病患ニ罹リシナシ(脉實)本年何月何日田圃耕作中忽然惡寒發熱歸家直ニ臥褥ニ就
 キ某ニ診察サシニ爾來水瀉日ニ三四行舌乾口渴其度隨テ昇進四十度ヲ越ニ一週ノ後腹脹ニ於テ紅疹ヲ發シ
 脾肝ノ濁音廣大シ耳鳴重聽飲食ヲ思ハス(症候經過)望扶斯熱ト(病)診察シ規尼涅明挫法酸類リモナイア
 滋養飲料醋水ノ洗身法等ヲ施シ(治)已ニ四週ヲ經過シ諸症漸次ニ快癒ニ赴キ候ヘ共全身衰弱復セザルニ付
 後(豫)歩行ナシ難ク及診斷候也或ハ何々症ヲ繼發シ所詮治癒スヘカラサル者ト及診斷候也

岡山縣何郡區何町村何番屋敷住

治療主任

何 某 印

診 斷 書

岡山縣何郡區何町村何番屋敷住
 族職業戶主名何男

姓 名

年号月日生

三百九十九

當何月何年何ヶ月

右ハ天資虛弱ニシテ幼稚ノ時膝病ニ罹リ數年ノ醫治ニ由テ全治ス五年來壯健ナリト雖モ膝質ハ中等ノ者ナリ(躰)明治何年何月何日山林樵伐ノ時左膝關節ヲ打撲シ右ノ脛骨ヲ折斷ス即時不動繃帶冷療法ヲ施シ疼痛劇甚ナルニ由テ「モルヒチ」少許ヲ與ヘテ之ヲ緩解ス顯今腫脹ハ減スレトモ折骨癒合ヲ得サルヲ以テ更ニ「ギブス」繃帶ヲ施シ安臥靜養セシム(經病名)病(經病名)以テ何ヶ月モ相立候ハ、平癒ニ至ルヘク(後)及診斷候也或ハ膝關節強直ヲ遺殘シ所詮治癒スヘカカラサル者ト及診斷候也

岡山縣何郡區何町村何番屋敷住

治療主任

何 某 印

年 号 月 日

岡山縣令第五拾壹号 明治廿二年十二月十二日

産婆開業試驗規則左之通り相定メ來ル明治二十三年二月一日ヨリ實施ス

産婆開業試驗規則

- 第一條 産婆ヲ開業セント欲スルモノハ此規則ニ依リ試験ヲ受クヘシ
- 第二條 産婆開業試験ハ毎年一回ト定メ五月中ニ應下便宜ノ場所ニ於テ産婆開業試験委員之ヲ施行ス但試験ノ場所及期日ハ其都度之ヲ告示ス
- 第三條 知事ハ病院醫員又ハ相當學術アルモノニ産婆開業試験委員ヲ命シ又ハ囑托ス
- 第四條 知事ハ第二部衛生課員ニ産婆開業試験掛ヲ命シ試験場ヲ監督整理セシム
- 第五條 産婆開業試験ハ之ヲ二種ニ分テ筆記試験口述試験トス
- 第六條 内務省産婆開業許可之證ヲ得ント欲スル者ハ筆記試験本縣産婆開業許可之證ヲ得ント欲スル者ハ口述試験ヲ願出ヘシ
- 第七條 筆記試験ノ答記ハ之ヲ内務省ニ送致シ其審査ヲ受ケ合格ノ者ニハ産婆開業許可之證ヲ受ケテ之ヲ本人ニ交付ス

第八條 口述試験ノ成績ハ試験委員ノ評定ニ據リ當縣限リ産婆開業許可之證ヲ交付ス

第九條 府縣限リ産婆開業許可之證所持ノ者ト雖モ筆記試験ヲ受クルコトヲ得

第十條 産婆開業試験ヲ受ケント欲スルモノハ試験願ニ修學履歷書ヲ添ヘ當廳ニ願出スヘシ

第十一條 試験願書ハ左ノ雜形ニ據ルヘシ

(願書雜形)

産婆開業試験願

何國何郡何市何町村何番邸(寄留ナレバ原籍)ヲ併記スヘシ

族 籍 氏 名

生 年 月 名

私儀産婆開業筆記(若シテハ口述)試験相受度候ニ付別紙修學履歷書相添此段奉願候也

右 町村長 氏 名 印

岡山縣知事宛 奧 書

郡市長 氏 名 印

第十二條 産婆開業試験ヲ願出ケタルトキハ受験者ハ知事ノ指定シタル期日迄ニ當廳ニ出頭シ宿所及氏名ヲ第二部衛生課ニ届出ヘシ

第十三條 産婆開業試験科目左ノ如シ

- 第一 婦人生殖器論(解剖ノ大意)
- 第二 正規妊娠論ノ大意
- 第三 正規分娩論ノ大意
- 第四 正規產褥論ノ大意

第五 異常妊娠論ノ大意
 第六 異常分娩論ノ大意
 第七 異常產褥論ノ大意
 第八 正規及異常妊娠間產婆ノ務
 第九 正規及異常分娩間產婆ノ務
 第十 正規及異常產褥間產婆ノ務
 第十一 產婆ノ成シ得ヘキ手術及藥劑用法
 第十二 產婆ノ義務
 第十四條 試驗ヲ分ツテ學說及實地ノ二トス其學說問題ハ五問トナシ第十三條ニ掲クル科目中ヨリ選定シ
 一問ニ付キ一時間以内ニ答記又ハ口答セシメ其實地問題ハ二問トシ專ク摸造品ニ就キ實地應用ノ術ヲ試
 驗シ一問ニ付一時間以内ニ答ヘシム
 第十五條 試驗委員ハ筆記試驗ノ答記ニハ之ニ意見書ヲ付シ口述試驗ノ應答ハ其及落ヲ評定シ成績表ヲ作
 リ知事ニ差出スヘシ
 第十六條 受験人ハ筆墨ノ他ニ品物ヲ携帯シテ試驗場ニ入ルヲ許サス
 第十七條 受験一問ヲリトモ試驗少欠席シタルトキハ其期ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス
 第十八條 試驗場取締ニ不都合ト認ムヘキ所爲アルモノハ試驗場ヨリ退場セシムルコトアルヘシ
 第十九條 受験人心得細目ハ試驗場ニ揭示スヘシ
 岡山縣令第五拾貳號 明治廿二年十二月十二日
 產婆養成所設置手續
 第一章 產婆養成所設置
 第一條 產婆養成所ヲ設置スルトキハ所轄郡市長之ヲ監督スルモノトス

第二條 產婆養成所ノ教師ハ醫師又ハ產婆學ヲ卒業セシ者ニ限ル
 第三條 產婆養成所ノ教師ハ其履歷書ヲ郡市役所ヲ經由シテ知事ニ差出ヘシ
 第四條 產婆養成所ヲ設置スルトキハ第十四條ヲ參酌シ學科課程試驗法授業法維持法及ヒ規則書ヲ編製郡
 市役所ヲ經由シテ知事ニ差出其認可ヲ受クヘシ
 第五條 產婆養成所主ハ該所内一切ノ事務ニ付責任アルモノトス
 但教科ニ係ル件ハ教師ノ責任トス
 第六條 產婆養成所ヨリ縣廳ヘ差出ス書面ニハ郡市長ノ興書ヲ要スヘシ
 第二章 學期 授業 試驗
 第七條 學期ハ一箇年半ト爲シ之ヲ分ツテ三期トシ六箇月ヲ以テ一期トス而シテ其前二期十二箇月間ハ
 主トシテ學說ヲ教授シ後一期六箇月間ハ實地演習並ニ產婆ノ職務ヲ教授シ及前期中ニ修メタル學科ヲ復
 習セシムルモノトス
 第八條 授業時間ハ學說實地トモ一箇月間二十五時間ヨリ少ナカラサルモノトス
 第九條 講義ハ平易簡明ヲ主トシ講述又ハ口授スルモノトス
 第十條 教科書ニハ主トシテ朱氏ノ產婆論ヲ用ヒ其他適應ノ書籍ヲ交互參酌スヘシ
 第十一條 試驗ハ可成平易ニ之ヲ行ヒ學科ノ大意ヲ會得セシ者コハ習熟證ヲ附與スヘシ
 第十二條 前條ノ場合ニ於テハ習熟證ヲ付與シタルモノ、住所氏名年齢等ヲ詳記シ郡市役所ヲ經由シ縣廳ヘ
 届出ヘシ
 第十三條 每期ノ終リニ試驗ヲ行ヒ其業ノ未ダ習熟セサルモノニハ更ニ前期ノ學科ヲ復習セシムヘシ
 第十四條 產婆養成所ニ於テハ產婆學術業ノ履歷アルモノコシテ臨時試驗ヲ受ケンコトヲ要求スルトキハ
 試驗ヲ行ヒ其成績ニ依リテ習熟證ヲ與ヘ若シクハ相當ノ學期ニ編入スルコトアルヘシ
 第三章 學科課程
 第十五條 學科程度左ノ如シ

第一期

誘導論

- 第一 人身概論
- 第二 兒胎論
- 第三 婦人骨盤論
- 第四 婦人生殖器論

正規妊娠論

- 第一 妊娠及其經過
- 第二 妊娠ニ於ケル生殖器及全身ノ變常
- 第三 妊娠滿期ニ至ル子卵ノ發育
- 第四 子宮及胎兒ノ位
- 第五 妊娠検査法
- 第六 妊娠ノ徵候
- 第七 受胎月日計算法
- 第八 妊娠攝生法

正規分娩論

- 第一 産力、産時、産經過ノ論
- 第二 胎兒ノ骨盤ヲ通過スル方法(分娩器械的作用)
- 第三 順産時産婆ノ務

正規產褥及哺乳期論

- 第一 產褥期母兒胎ノ常態論
- 第二 産婦及乳兒ノ看護法

異常妊娠論

- 第一 胎兒ノ不整位置論
- 第二 多胎妊娠論
- 第三 子宮外妊娠
- 第四 妊娠ノ嘔吐下痢便秘利尿困難等
- 第五 妊婦ニ於ケル子宮位置ノ變轉症(トルツン)及骨盤内腫瘍
- 第六 妊婦ニ於ケル陰部ノ粘液漏水液漏出血殊ニ流産墮胎ニ依リテ起ル出血
- 第七 妊娠中胎兒ノ死亡
- 第八 産婦ノ失氣假死及死亡

第二期

異常分娩論

- 第一 不整方向ノ頭産
 - 其一 小頭門ヲ後方ニ向ケタル頭産ノ二種類
 - 其二 頭顱横産
- 第二 不整胎勢ノ頭産
 - 其一 顛頭産
 - 其二 前頭位
 - 其三 額面位
 - 其四 斜頭位
 - 其五 頭側ニ一手或ハ一足現出セルモノ
- 第三 異常位置分娩
 - 其一 骨盤位産 足位産 膝位産

- 其二 斜位及橫位
 - 第四 多胎分娩
 - 第五 胎兒ノ異大異小及不整ノ胎形
 - 第六 異常骨盤ニ於ケル産
 - 第七 陣痛異常
 - 其一 陣痛微弱症
 - 其二 陣痛過劇症
 - 其三 痙攣性陣痛
 - 第八 骨盤軟部ノ損害及産道ノ裂傷
 - 第九 羊水卵膜臍帶ノ異常
 - 第十 産婦ノ虚弱及疾病嘔吐失氣瀉痢
 - 第十一 産時ノ出血
 - 第十二 産婦ノ假死及死亡
 - 第十三 産時胎兒ノ死亡及産後ノ假死
 - 第十四 後産期ノ障害
- 第三期
- 産褥及哺乳期ノ障害(異常)
- 第一 産褥婦人ノ生殖器病及全身病
 - 第二 授乳ノ障害乳母人工育兒法及之レニ起因スル消化器障害
 - 第三 乳二三ノ疾病
- 産婆ノ注意
- 第一 産婆ノ不時ノ急症ニ對スル處置法及藥用法

第二 産婆ノ義務

岡山縣令第五拾三號 明治廿二年十二月十二日

産婆取締規則左ノ通り相定メ來ル明治廿三年二月一日ヨリ實施ス

産婆取締規則

- 第一條 産婆ハ内務省又ハ當縣ノ産婆開業許可之証ヲ所持ノ者ニシテ年齡滿二十歳以上ノ者ニアラザレバ開業スルヲ許サス
- 第二條 内務省産婆又ハ當縣産婆開業許可之証ヲ得ント欲スルモノハ本年(本月)當縣令第五十壹號産婆開業試驗規則ニ依リ試験ヲ受クヘシ
- 第三條 本年(本月)當縣令第五十二号ニ據リ設置シタル産婆養成所ノ習熟証又ハ他府縣ノ産婆開業許可之証ヲ所持スルモノハ試験ヲ要セス當縣産婆開業許可之証ヲ付與スルコトアルベシ
- 第四條 前條ニ該當スルモノニシテ當縣産婆開業許可之証ヲ得ント欲スルモノハ産婆養成所習熟証又ハ他府縣産婆開業許可之証ノ寫及俯學履歷書ヲ添ヘ郡市役所ヲ經テ當縣ニ願出ヘシ
- 第五條 産婆ハ産科器械ヲ使用シ又ハ産婦生兒ニ藥劑ヲ與ヘ又ハ藥方ヲ指示スルヲ許サス
- 第六條 産婆ハ死産ヲ取扱フタルハ明治十三年(十一月)當縣甲第百六十七號死亡並ニ死産届規則第二條ニ據リ死産届ノ手續ヲナスヘシ
- 但醫師ト共ニ取扱フタルハ醫師ヨリ届ケシムヘシ
- 第七條 産婆ハ腹胎ノ疑アリト認ムルハ速ニ所轄警察署又ハ分署ニ申告スヘシ
- 第八條 産婆開業許可之証ハ貸借讓與スルヲ許サス
- 第九條 産婆廢業又ハ死亡シタルトキハ産婆開業許可之証ハ速ニ返納スヘシ
- 第十條 管内外ヲ問ハス轉籍又ハ寄留シテ開業スルハ元開業地ノ郡市役所ヲ經テ當縣ヘ届出ツヘシ當縣産婆開業許可之証ヲ所持ノ者他管下ヘ轉籍スルハ郡市役所ヲ經テ當縣ヘ該証ヲ返納スヘシ
- 第十一條 産婆開業許可之証ヲ毀損亡失シ又ハ氏名等ノ變換ニ由リ書換ヲ要スルハ郡市役所ヲ經テ當縣

願出更ニ開業許可之証ヲ受クヘシ
第十二條 産婆ハ左ノ雛形ニ倣ヒ標札ヲ門戸ニ掲クヘシ

標札雛形
曲尺二尺

岡山縣何國何郡何市何町村
内務省又ハ岡山縣免許
産婆 氏 名

第十三條 此規則第一條第五條第六條第七條第八條ニ違背シタルモノハ本縣違警罪トシ三日以上十日以下ノ拘留又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處シ尙ホ其情狀ニ依リ營業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

岡山縣令第五十二号 明治廿三年九月十七日

廿五年
第二十六号
ス以下加除

本年八月法律第七十六号獸醫免許規則第十二條ニ依リ獸醫仮開業免狀下渡出願規則左之通り改定ス
獸醫假開業免狀下渡出願規則

第一條 法律第七十六号獸醫免許規則第十四條獸醫假開業免狀ヲ得ント欲スル者ハ第壹号書式ノ願書ニ
第二号書式履歷書ヲ添ヘ郡市役所ヲ經テ當廳ヘ差出ヘシ

第二條 假開業獸醫營業ノ免許年限ハ滿ニケ年以内トス
第三條 假開業獸醫ハ免許區域外ニ出テ病畜ノ治療ヲ爲スヲ得スト雖モ其免許區域内ニ來リタル病畜ハ之ヲ療治スルコトヲ得

第四條 假開業獸醫コシテ本免許ヲ得タルハ郡市役所ヲ經テ其假開業免狀ヲ返納スヘシ
第五條 假開業獸醫コシテ免狀ノ有効期限經過シタルハ十五日以内ニ郡市役所ヲ經テ該免狀ヲ返納スヘシ

第一号書式(用紙美濃紙二通)

岡山縣下何國何郡市何町村何番邸居住
(寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ)

族 籍 氏 名

年 月 日

私儀岡山縣下何國何郡市何町村何番邸ニ於テ獸醫開業仕度候間獸醫假開業免狀御下附被成下度別紙履歷書
相添ヘ此段奉願候也
年 月 日

右 氏 名 印
町村長氏 名 印

農商務大臣某職

第二号書式(用紙美濃紙貳通)

履 歷 書

一何年何月ヨリ何年何月迄何府縣下何國何郡市何某ニ就キ何々學科修業何年何月何府縣獸醫免許證札ヲ以テ何地ニ於テ何年何ヶ月間開業
右之通相違無之候也

岡山縣下何國何郡市何町村何番邸居住
(寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ)

族 籍 氏 名

岡山縣告示第三十三号 明治廿五年四月八日

本年(三月)内務省令第一号ニ依リ醫師并ニ藥劑師免狀新規及書換手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘキ處該手数料ハ成規ニ據リ免狀下付ノ節徴収ノ筈ニ付願書ニハ印紙ヲ貼用セシ差出シ退テ免狀下付ノ際受書ヘ其金

額相當ノ印紙ヲ貼用シ差出スヘシ

岡山縣告示第十一号 明治廿六年一月廿六日

痘苗取締上必用ニ付開業醫ニ於テ取扱フタル痘苗ニシテ牛痘漿人化痘漿ノ別ナク不感又ハ不良ノ成績(例
之内素蔓延性皮下結締織炎皮膚病其他併發ノ症等)ヲ呈シタルモノアルトキハ其症狀及製造所又ハ購入先
ヲ詳細記載シ所轄郡市役所ヲ經テ當廳ヘ届出ツヘシ
岡山縣令第三拾九號 明治二十七年七月七日

醫師黒死病又ハ同病疑似ノ患者若ハ吐瀉下痢症ノ患者ヲ診察シタルトキハ即時口頭若ハ簡易ナル書面ヲ以
テ其ノ症狀住所氏名ヲ所轄警察署分署巡査派出所又ハ巡査駐在所ニ届出ツヘシ

黒死病又ハ同病疑似ノ患者若ハ吐瀉下痢症ニ罹リタルモノニシテ居所ヲ移轉セントスルトキハ其ノ戶主ヨ
リ所轄警察署分署巡査派出所又ハ巡査駐在所ニ届出テ許可ヲ受クヘシ但シ全居又ハ寄留スル職工雇人等ニ
對シテハ宿主ヨリ本項ノ手續ヲナスヘシ本令ニ違フモノハ刑法第四百二十六條第四項ニ依リ處罰ス

乙第三十四号 明治十二年三月廿八日

郡區 町 村

從來開業ノ醫師他管ヘ轉籍寄留ノ節ハ本縣添寄ヲ以從來開業ノ醫タルヲ證シ移住ノ管廳ニ於テ學術試驗ニ
不及許可可致管ニ付該業者轉籍寄留開業致シ度モノハ右添寄可爲申附此旨相違候事

乙第十三號

明治十三年二月九日

郡區 役所 戶長 役場

二十三年乙第
二十九号ヲ
加テ付書道

明治九年(二月)當縣乙第三十七號ヲ以テ内務省送死届書式相示シ十二年(十一月)當縣乙第百貳拾五號ヲ
以テ醫業ノ費和減洋ニ拘ハラス普通ヲ主トシ自家ノ見識ニ任セ病名記載届出不苦旨相違候ニ付テハ十一年
(十月)當縣丁第二十二號送ニ基キ死亡表登記ノ際病名ハ部門種類ノ判然ナラサルヨリ自然錯誤候様ノ儀
有之候テハ不都合ニ付自今醫師ヨリ出ス所ノ死亡届書式中病名ノ傍ニ十一年(十月)當縣乙第百五十一號送
大別部門ノ病名例ハハ虎列刺病流行病癩癰ニ全身ヲ指記致候様醫業ノ者ヘ無誤告示スヘシ此旨相違候事
病中風ニ神經系病ト記載スルノ類

但皇漢及雜法醫ニシテ大別部門ノ病名ニ差間フルモノハ不及掲記事

乙第五十四号

明治十三年十月二日

郡區 役所 戶長 役場

本年(七月)第三十四号ヲ以傳染病豫防規則公布相成候ニ就テハ該規則中六種ノ病名ハ學派ノ差別ナク總テ
開業醫ノ者共相用可届出儀ニ候條各醫業ノ者ヘ可申達此旨相違候事

乙第五十六号

明治十三年十月十四日

郡區 役所 戶長 役場

管内醫員ノ内間ニハ發疹瘰癧私及腸窒扶私ノ兩病症ヲ明知セサルヨリ腸窒扶私ヲ發疹瘰癧私ト誤診届出テ
爲スモノ有之右ハ病況ノ診微及豫防法大ニ異ナル儀ニ付別紙衛生局報告該病辨識願布候條精々注意ヲ加ヘ
判然辨別届出候様醫業ノ輩ヘ告示スヘシ此旨相違候事

(別紙)内務省衛生局報告第拾五號 明治十三年八月十一日

發疹瘰癧私及腸窒扶私兩症ノ辨識

發疹瘰癧私及腸窒扶私ノ二病ハ其病候同クスル所アルヲ以テ從來此二病ヲ辨別スルヲ得カリシニ二三
年以來病屍剖檢及診斷學ノ進歩セシテ其病ノ診微及剖觀ノ大異アルト其傳染性ノ劇易アルト知ルヲ
得タリ今此二病ノ全然其性ヲ異ニスルヲ知ラスシテ唯其名稱ノ略相似タルヨリ診斷ノ際彼此ヲ辨別セサル
ルハ幸ニ其ノ治療ノ法少異ルヲ知ラスシテ唯其名稱ノ略相似タルヨリ診斷ノ際彼此ヲ辨別セサル
患者ニ發疹瘰癧私豫防ノ嚴法ヲ遵守セシメハ管ニ其目的ヲ達スル能ハサルノミナラス徒ニ病家ノ困苦ヲ招
クコ多カルヘシ因テ二病ノ相異ル所ヲ記シテ愛ニ報告ス

發疹察扶私

- (一) 傳染ノ性最烈ナリ
- (二) 一回發スレハ蔓延流行スルヲ常トス
- (三) 此病ニ罹ルハ其年齒ノ長幼ニ拘ハシスト雖モ亦時アリテ多ク老者ヲ侵スヲアリ
- (四) 發病ニ先チ前兆至テ短ク大概寒戰シテ後病候ヲ順發ス
- (五) 顔面潮紅眼目赤色ヲ呈ス
- (六) 病初ヨリ譫語及精神痲鈍症ヲ發ス
- (七) 發疹ノ色暗紅ニシテ全身ニ布滿ス
- (八) 脉力大ニ虛脫ス
- (九) 腹部ノ發症ナシ大抵便秘ス
- (十) 肺充血及肺炎ヲ併發ス
- (十一) 治癒ニ赴ク者ハ病候順ニ減退シ腦症モ亦速ニ輕快ス
- (十二) 本病ノ經過三週ヲ出ツルハ稀ナリ
- (十三) 初週ノ終ニ死スル者少ナカラス多クハ二週以前ニ斃ル
- (十四) 死狀劇烈特異ノ徵ナシ血液暗色ニメ流動シ心肉軟化ス但腸ニ病患ノ徵ナシ

腸室扶私

- (一) 傳染ノ性甚ク弱シ
- (二) 流行ニ至ラスシテ不斷散在シ又時々大流行ヲ致スヲアリ
- (三) 此病ニ罹ル者ハ通常十八年ヨリ三十五年ニ至ルノ間ヲ多シトス
- (四) 發病ニ先チ前兆アルヲ數日間ニシテ且病候ノ増進モ亦緩徐ナリ
- (五) 面貌初メハ赤色ナレバ後ニハ忽チ蒼白トナリ且赤目ノ徵著シカラス
- (六) 腦症漸次ニ發シ來ル
- (七) 發疹淡色ニメ通常四肢ニ及ホスヲナシ
- (八) 身軀大ニ麻痺ス
- (九) 腹部鼓張シ或ハ下痢シ屢下血ス
- (十) 氣管支炎肋膜炎ヲ合併ス
- (十一) 治ニ赴ク者ト雖モ諸症徐ニ退消ス
- (十二) 經過必ス三週ヲ費シ或ハ四週ヲ過クル者アリ
- (十三) 二週以前ニ死スル者ハ稀ニメ通常二週乃至三週ノ後ニ斃ル
- (十四) 腸ノ集腺腫起シ或ハ潰爛シ腸間膜腺モ亦屢脹シ脾臟軟腫ス

上文肥スルカ如ク此二病ノ診候自チ區別アリト雖モ亦其二症候交互錯雜シテ病初發疹察扶私ノ狀ヲナシ末期ニ及ンテ腸室扶私ノ經過ヲ取ル者又發疹モ初メニ暗紅色ノ者ヲ生シ後ニ淡色ノ者ヲ發シ來ルヲアリ又或ハ腸室扶私ノ患者便秘シ發疹察扶私ノ患者下痢スル者アルカ如キ實ニ彼此ノ辨識至難ナルモノ亦往々無キニ非ストス

十五年四月廿五日
告示第四十九号
十五年五月四日
乙第三十号
甲第七拾三號

本縣醫學校卒業生徒ハ別ニ内務省ノ試驗ヲ要セズ開業免狀交付

醫師藥師兼業ヲ禁ス

明治十五年九月廿一日

自今開業醫ニシテ管内甲郡區ヨリ乙郡區ニ移轉ノ際開業證書換領ノ儀ハ移轉ノ郡區町村屋敷番号等詳記シ

甲郡區役所ノ添書ヲ請求シ乙郡區役所ヲ經テ縣廳ニ可願出此旨布達候事

甲第四拾八號
明治十六年六月十九日

各開業醫ニ管内限リ下付有之醫術開業ノ配證書ヲ以テ轉居ノ節ハ書換可願出旨相示シ置候處自今管内他郡區ニ轉居候節ハ例規ノ通書換可願出郡區内ノ町村ニ轉居候節ハ別段書換ニ不及候條其町村名戶番號共詳細郡區役所ニ届出郡區役所ニ於テハ醫名簿訂正ノ上縣廳ニ報告可致此旨布達候事

明治十六年六月二十七日

郡區役所
戶長役場
衛生委員

今般内務省衛生局ヨリ照會有之候條自今肺肝寄生蟲病ニ罹ルモノヲ治療候節ハ其主候姓名住地男女職業年齡等ヲ詳記シ每年前半期ハ七月三十一日後半期ハ翌年一月三十一日限郡區役所ヲ經テ衛生課ニ報告可致候條醫藥ノ者ハ無誤可相達此旨相達候事

明治十六年八月七日

郡區役所
戶長役場
衛生委員

明治十二年(一月)菅野甲第十號ヲ以テ中毒患者届方ノ儀相達置候處醫師診斷書之儀ハ自今別紙雛形ニ照準
候様醫藥之者ハ無漏可相達此旨相達候事

中毒患者御届

何國何(郡區)何(町村)何番屋敷

族籍職業戶主名何男(女)

何

某

年輪何年何ヶ月

年月日

概略

一罹毒

一處方

何々

現症ノ概略

一毒物品名

全適ハ經過ノ日數死亡ハ死ニ至ルノ時間

右之通診斷候ニ付此段御届申上候也

何國何(郡區)何(町村)

治療主任

醫師 何 某 印

年月日

明治十七年十二月二十六日

甲第百八號 開業醫師取締規則左ノ通相定候條此旨布達候事

開業醫師取締規則

第一條 菅管内ノ醫師ニシテ他府縣ニ移住スル者ハ其移住スヘキ府縣國郡區町村ヲ記載シ他府縣下ノ醫師
ニシテ菅管内ニ移住シ又ハ菅管内ニ於テ新ニ醫術ヲ開業スル者ハ其開業スヘキ國郡區町村ヲ記載シ免狀寫
及履歷書ヲ添ヘ戶長連署郡區役所ヲ經テ當廳ヘ届出ツヘシ

第二條 菅管内ノ醫師ニシテ甲郡區ヨリ乙郡區ヘ移住スル者ハ其移住スヘキ郡區町村ヲ記シ戶長連署甲乙
郡區役所ノ添書ヲ得テ當廳ヘ届出ツヘシ

第三條 醫師其居住地外ノ町村ニ出診所ヲ設ケルルハ其概則及場所(他府縣ヨリ菅管内ニ之レヲ設ケルルモ
ノハ免狀寫シ并ニ履歷書ヲ添フヘシ)ヲ記載シ其地戶長連署郡區役所ヲ經テ當廳ヘ届出ツヘシ

第四條 醫師ハ必ラス處方錄ヲ製シ患者ノ住所姓名年齢職業及病症處方轉歸等ヲ詳記スヘシ
但忠者治療ヲ休止シ又ハ醫師ヲ轉換スル等其轉歸ノ詳明ヲササルモノハ其事由ヲ記入スヘシ

第五條 醫師藥劑ヲ與フルルハ其容器又ハ包紙ニ用法患者ノ姓名及自己ノ姓名ヲ記載シ且ツ内服藥ト外用
藥ト一見辨識シ易キ權區別ヲナスヘシ其處方書ヲ與フルルハ年月日及患者ノ住所姓名年齢ト自己ノ姓名
ヲ記載捺印スヘシ

第六條 患者ノ診察ヲナサズシテ藥劑又ハ處方書若シハ容狀書ヲ與ヘ或ハ檢案ヲナサズシテ死亡又ハ死
産ノ届書ヲ與フヘカラス

甲第拾五號 明治十八年二月二十七日

開業醫師組合規則左之通相定メ來五月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

開業醫師組合規則

第一條 本縣管内ニ於テ醫術ヲ開業スルモノハ其内外科ト專門トト問ハス渾テ此規則ヲ遵守スルモノトス
第二條 此規則ハ開業醫師相互ニ規約ヲ定メ左ニ記載スル數項ヲ履行スル爲メニ設置スルモノトス
一 醫業ニ關スル布告達ノ實行ヲ圖ル事
一 醫風ノ改良ヲ圖ル事

明治十七年
十二月二十
七日正
明治十八年
甲第百八號
加除

一 醫術ヲ研究スル事
 一 地方病ヲ探究シ郡區長ニ報告スル事
 一 傳染病豫防法ノ實行ヲ圖ル事
 一 公衆衛生事業ヲ贊助スル事
 一 醫業ニ關スル公共ノ義務ヲ盡ス事

第三條 此組合區畫ハ郡區長ニ於テ其部内土地ノ便否ト同業者ノ多寡ヲ斟酌シ適宜之レヲ定メ開業醫師ニ告示スルモノトス

第四條 組合區畫内居住ノ開業醫師ハ勿論縣立ノ醫學校又ハ病院ニ勤仕ノ醫師モ必ラス此組合ニ加入スルモノトス但縣立ノ醫學校又ハ病院ニ勤仕シ自宅ニ於テ開業セザルモノハ此限ニアラス

第五條 組合中ニ於テ組長登名及幹事若干名ヲ選定シ組合ニ係ル諸事ヲ辦理セシムルモノトス但組長差支アルハ幹事ノ内ニテ代理スルモノトス

第六條 組合細則組長及幹事ノ任期等ハ組合協議ノ上之レヲ定メ組合開業醫師名簿ト共ニ郡區役所ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ

但本條ノ事項ニ變更アルハ其郡度届出ツヘシ

第七條 組合開業醫師ハ第二條ノ各事項ヲ履行スル爲メ時々集會スヘシ若シ縣令又ハ郡區長ヨリ諮問ノ事アルハ臨時集會ヲ命スルコトアルヘシ

第八條 組合集會ハ其期日集會ノ場所及日時ヲ記載シ郡區役所ヘ届出ツヘシ

第九條 組合集會ニハ時宜ニ依リ衛生課員又ハ郡區衛生掛員臨席スルコトアルヘシ

第十條 醫事又ハ衛生上ノ利害得失ニ就キ意見アルハ組合協議ノ上組長ノ名ヲ以テ縣令又ハ郡區長ニ建議スルコトヲ得

第十一條 新ニ醫術ヲ開業スルモノ及他管下ヨリ轉居開業スルモノハ其地組長ニ通知シ必ラス其組合ニ加入スルモノトス

明治十八年
 甲第百二十三號
 五号ヲ以テテ
 届方加除

第十二條 管内醫師ニシテ從來ノ組合外ニ轉居開業スルハ新舊組長ニ通知シ必ラス新開業地ノ組合ニ加入スルモノトス

第十三條 醫師ニシテ廢業或ハ休業スルハ必ス組長ニ通知スルモノトス

第十四條 組合ニ關スル諸費ハ渾テ組合開業醫師ニ於テ負擔支辨スヘキモノトス

明治十八年五月十一日
 甲第四十一號
 十八年五月十一日
 甲第四十三號
 甲第百五號

入齒々坂口中療治接骨營業
 取締規則
 諸營業取締ヘ載ス
 諸營業取締ヘ載ス

明治十三年(七月)第三十四號布告傳染病豫防規則ニ依リ醫師ヨリ傳染病届方心得左ノ通相定候條此旨布達候事

但此布達ニ抵觸スル從前ノ布達達指令等ハ渾テ廢止ス

傳染病患者届方醫師心得

第一條 醫師ニ於テ傳染病(虎列拉、霍亂、赤痢、痘疹) 患者ヲ診察スルハ第壹号書式ノ届書ヲ作り廻クモ二十四時間以内ニ患者所在ノ戶長役場ニ差出スヘシ

但土地ノ便宜ニ依リ警察署分署交番所ノ内ヘ差出スモ妨ケナシ

第二條 傳染病ノ疑アル患者ニシテ確然診斷シ能ハサルハ他醫ノ會診ヲ要スヘシ尙ホ判定シ難キ場合ニ於テハ其病狀ヲ詳記シタル届書ヲ作り第一條ノ手續ヲナスヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ傳染病同様に豫防消毒法ヲ行ハシムヘシ

第三條 第一條第二條ノ患者治癒又ハ死亡シタルハ第二号書式ノ届書ヲ作り第一條ノ手續ヲナスヘシ但シ傳染病患者ノ他病ヲ繼發シ傳染ノ恐レナキモノハ其由ヲ詳記シタル届書ヲ作り第一條ノ手續ヲナスヘシ

第四條 傳染病ノ死体ヲ檢案シタルハ第三号書式ノ届書ヲ作り第一條ノ手續ヲナスヘシ

第五條 第三條ノ死亡及第四條ノ場合ニ於テハ明治十三年(十一月)本縣甲第百六十七号布達死亡及死産届規則ニ示ス所ノ死亡届ハ其例ニ據リ差出スヘシ
(第一号書式) 用紙半紙一通

傳染病届

何國何郡區何町村何番屋敷(寄留)
(戸主又ハ某妻幾男幾女兄弟姉妹)

氏 名

年 齡

一職業 (本人無職業ナレハ戸主何職業ト記スヘシ)

一(、、、、) 痘瘡患者ナレハ天然痘ノ濟否若シ種痘濟ナレハ初種再三ノ種別善感不感善ノ別ヲ記スヘシ

一病名

一原因 傳染ノ原因知り得ヘキ丈ケテ記スヘシ

一症候

一經過 何月何日發病何月何日何時何分診定ト記スヘシ

一療法 其概略ヲ記スヘシ

右御届申候也

何郡區何町村何番屋敷(寄留)

醫師

氏 名 印

年月日何時何分

縣令氏名 殿

(第二号書式) 同上

傳染病轉届

何國何郡(區)何町(村)何番屋敷(寄留)
(戸主又ハ某妻幾男幾女兄弟姉妹)

氏 名

年 齡

一病名

一全癒 (死亡)

一經過

右ハ何年何月日届出ノ患者ニ候處本日治癒(死亡)仕候間此段御届申候也

何郡(區)何町(村)何番屋敷(寄留)

醫師

氏 名 印

年月日何時何分

縣令氏名 殿

(第三号書式) 同上

傳染病死後檢案届

何國何郡(區)何町(村)何番屋敷(寄留)
(戸主又ハ某妻幾男幾女兄弟姉妹)

氏 名

年 齡

一職業 (本人無職業ナレハ戸主何職業ト記スヘシ)

一(、、、、) 痘瘡患者ナレハ天然痘ノ濟否若シ種痘濟ナレハ初種再三ノ種善感不感善ノ別ヲ記スヘシ

一病名

一原因 傳染ノ原因知り得ヘキ丈ヲ記スヘシ
一現狀
右檢案候處傳染病屍ト診斷候ニ付此段御届申候也

何郡(區)何町(村)何番屋敷(寄留)

年月日何時何分

醫師

氏 名 印

種 痘 縣令氏名 職

甲第三十八号

明治十年四月四日

痘癘ノ慘毒ナルハ人ノ知ル處ニシテ人間一生ノ中ニハ此病ニ罹ルヘキ約束ノ感受性アリテ人タルモノ此病ヲ免カサル、能ハス故ニ其病ヲ防ク爲メ種痘法ノアル所以ニシテ内務省ヨリモ再三御達之アルノミナラス縣廳ヨリモ屢諭達ニ及置候ヘドモ儘等閑ニ打過候モノモ不少哉ニ相聞ヘ不都合ノ事ニ候畢覽斯官廳ヨリ達スル旨意ハ人ヲシテ天壽ヲ全フセシメ其身ヲ保ツコトヲ示スモノニシテ決シテ他念アルコトナシ又此種痘ト云フモノハ一回行ハハ生涯此病ニ罹ルコトナシト思フハ大ナル誤ニテ此種痘ハ前ニ云フ感受性ヲ一時挫撰スルノミニ付必ス五六年毎ニハ再三種痘ヲ爲シ彼ノ慘毒ニ罹ラサルヤウ人々心掛クヘキハ勿論ノ事ニ候加之萬一天然痘流行ノ節ハ速ニ再三豫防(種痘)ノ法ヲ行ハサレハ此災ヲ免カル、能ハス又種痘ヲスルモ養生惡キ時ニハ何ノ益ニモ立ツモノニ無之ニ付左ニ養生法ノ規則ヲ示シ候條能々此意ヲ體シ心得違無之様可致此旨諭達候事

種痘養生法ノ規則

第一條 痘種ヲセシ日ヨリ一週日ノ間ハ清潔ヲ溫暖キ家内ニ靜息安養寒冷ヲ避テ胃感ヲヒカヌヤウニスヘシ

第二條 種痘養生中ハ總テ食物ヲ過量食ハヌヤウニシ又刺衝物ハ決シテ飲マヌヤウニスヘシ

第三條 入湯ハ決シテナスヘカラス尤モ身軀ニ汗濕テ汚垢カ付テ心持ノ惡キ事アラハ手拭ヲ湯ニ浸シ堅ク絞リテ痘ノ處ヘ觸レヌヤウニシテ拭ヒ取ルヘシ

第四條 種痘ヲセシ部ニ醫師カ細帯ヲナサハ決シテ是ヲ漫ニ解キ又ハ緩メタリシテハナラヌ且飯令極痒ヲ發セシトテモ能ク氣ヲ付テ搔キ取ラヌヤウニスヘシ

第五條 種痘ヨリ七八日目ニハ必ラス其種痘ヲセシ醫師ノ許ニ到リヨク眞種カ又ハ假種カヲ視テモヲヒ然シテ眞種ナラハ更ニ改メテ一週日ノ間ハ又前ノ一週日ノ間ノヤウニ養生ヲスヘシ假種ハ再ヒ日數ヲ經テ必ラス接種スヘシ尤モ前ニ種痘ヲ爲シ眞痘セシモノハヨク感セヌモノト心得ヘシ總テ種痘ヲスルモノハ此五條ヲ堅ク守リ決シテ忽ニスヘカラス

明治十二年五月一日

甲第六十五號
種痘ハ天然痘ヲ豫防スルノ良法ニシテ之ヲ未痘兒ニ普及スルハ漸次分苗以テ播種スルニアリ然ルニ分苗スレハ該兒ニ後害アルヲ無開疑礙ヲ抱キ之ヲ嫌忌スルモノ有之趣右ハ決テ後害等無之モノニ候條醫師ノ求ニ應シ分苗シ種痘普及ノ障害無之様可致此旨諭達候事

明治十八年五月六日

甲第三拾九號
種痘術ヲ施ス者ハ種痘ノ適否接種ノ方法痘苗採取及貯蓄ノ法善感不善感ノ鑑別種痘ノ注意等ヲ詳知セサル可カラス其要左ノ如シ

種痘術心得書

種痘術ヲ施ス者ハ種痘ノ適否接種ノ方法痘苗採取及貯蓄ノ法善感不善感ノ鑑別種痘ノ注意等ヲ詳知セサル可カラス其要左ノ如シ

第一 種痘ノ適否

第一條 種痘ハ左ニ掲クル者ニハ施サ、ルサ可トス
一 生後七十日ヲ經サル者

- 二 種痘ノ爲ニ一時増進スヘキ病患アル者
- 三 丹毒流行ノ土地ニ居住スル者
- 四 蔓延性ノ皮膚病アル者
- 五 熱性病ニ罹リ居ル者

第二條 種痘ニ適スル時期ハ春(三月四月五月)秋(九月十月十一月)二季ヲ以テ最良トス然レモ四季共ニ之ヲ施シテ妨ナシ

第二 接種ノ方法

第三條 種痘ヲ施スハ上膊(三稜筋抵止ノ部位)ニ於テ各々三針乃至五針(受痘者ノ年齢胚質等ニ隨フ)トシ各針ノ距離曲尺五分以上ニシテ痘胞ノ輪互ニ密接セサル様注意スヘシ

第四條 施術ニ先チ針尖ヲ拭淨シ一時ニ數人ニ接種スルトハ一人毎ニ之ヲ拭淨スヘシ

第五條 良性ナル痘漿ヲ採リテ移植スルヲ確實ノ良法トスレモ此法ヲ行フニ能ハサルトハ貯蓄ノ痘苗ニシテ成ルヘシ新鮮ナル者ヲ選ビ用フヘシ但皮膚ハ用ヒサルヲ可トス

第三 痘苗採收及時蓄ノ法

- 第六條 痘苗ハ左ニ掲クル者ヨリ採收スヘカラス
- 一 痘胞ノ成形過度及過大ノ者 發症非常ニ大ナル者 痘緣又ハ臍部ニ水泡ヲ生スル者 痘胞非常ニ隆起シテ透明ノ漿液ヲ漏出スル者 一種ノ疑フヘキ色例ヘハ紅藍色ヲ呈セルカ如キ者 但此等ノ異常痘胞ノ近傍ニ在ル正痘モ亦同シ
 - 二 痘漿ノ血液ヲ混セル者 胞ノ中央ニ在ル痘漿ノ腐敗ニ向ントスル者 痘胞ノ已ニ化膿ニ傾キシ者 痘漿又ハ摩擦ノ爲ニ痘胞破潰セシ者
 - 三 梅毒腺病及ヒ皮膚病ニ罹リ居ル者 營養不良ノ者
 - 四 丹毒ヲ併發セル者 經過不整ニシテ不善感ノ疑アル者(第十四條ヲ參觀スヘシ)
 - 五 天然痘ヲ經タル者 再三種ノ者

第七條 痘漿ヲ採ルハ通常接種後第八日(二十四時間)ヲ以テ一日ト算ス下皆同シ)ヲ以テ佳トスト雖時侯ノ寒暖及各人ノ性質ニ隨ヒ第七日又ハ第九日ヲ以テ適度トスルコトアリ痘胞ハ善感良性ノ者ニシテ其包含セル所ノ漿液ハ混濁セス粘稠露滴ノ如クナルヘシ

第八條 痘漿ヲ採ルコトハ痘胞ノ中心ヲ避テ泡面ヨリ斜ニ淺刺シ深ク刺シテ出血セシムヘカラス

第九條 發痘一顯ナル者ノ痘胞ハ其漿液ヲ採ルヘカラス又數顆アルモ其一顆ハ傷クヘカラス

第十條 痘苗ヲ貯蓄シテ接種ノ用ニ供セントスルニハ硝子板間ニ貯ヘテ密封シ又ハ硝子製毛細管ニ吸入セシメテ其兩端ヲ固封シ日光及寒熱ノ劇度ヲ避ケ時フヘシ(痘苗ノ貯蓄法甚宜シキヲ得ルルハ五箇月間充分ノ效力アリ)

第四 善感不善感ノ鑑別

- 第十一條 種痘ノ善感不善感ヲ鑑別スルニハ左ノ各項ヲ以テ要點ト爲ス
- 一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メシヤ否
 - 二 痘胞常形ニシテ其大サ及硬サハ皮下皮上共ニ同一ナルヤ否
 - 三 紅腫ハ常形ナルヤ否
 - 四 經過整然トシテ其時期ヲ誤ラサルヤ否
 - 五 第八日ニ至リテ微熱少發スルヤ或ハ然ラサルモ其他ノ微候ヲ呈スルヤ否
 - 六 痂皮ハ黯褐色又ハ黑色ニシテ其厚サ及硬サハ常度ナルヤ否
- 第十二條 種痘善感ノ微候ハ左ノ經過ニ就キテ知ルヘシ
- 接種後第一日第二日ノ間ハ他ノ刺傷ニ異ナルコト無シ施術針痕ノ周圍ニ淡紅色ノ小丘ヲ發スレモ暫時ニシテ消失ス(或ハ此丘見サルコトアリ)第三日ニハ針痕ノ部ニ小ナル紅點ヲ生シ試ニ指頭ヲ以テ之ニ觸ルレハ稍々隆起セルヲ覺フ(經過緩慢ナル者ハ第四日第五日ニ至リ始テ此紅點ヲ生スルコト有リ)
- 第四日ニハ紅色ニシテ硬ク且ツ隆起セル圓形若クハ橢圓形ノ小結節ヲ生ス
- 第五日ニハ結節細小ノ水泡ト爲リ其周圍ニ狭キ紅暈ヲ見ル

第六日ニハ水泡稍々増大シ其邊縁隆起シテ泡ノ中央ニハ陷凹ヲ呈シ泡中ニハ稀薄透明ニシテ稍々帶藍色ナル液ヲ充實シ周圍ノ紅血稍々増大ス

第七日ニハ諸症益々増進ス
第八日ニハ痘疱全ク成形ス其大サハ豆大ニシテ周圍ハ脈腫シ微シク疼痛アリ泡中ノ液ハ倍々充實シ紅帶亦著シク増大ス此期ニ當リ(或ハ此期以前)微熱ヲ發シ或ハ全ク熱候ナク顔面ハ蒼白色ヲ呈スルコトアリ又腋下ニ疼痛ヲ覺ヘ水脈脈腫起スルコト有リ

第九日ニハ紅血更ニ増大シ其色澤モ亦加ル
第十日ニハ泡液化膿シテ白濁或ハ黃色ノ濃稠液ト爲リ泡ノ中央稍々凸隆ス然レモ其形必ス扁圓ナリ

第十二日ニ至ルマテハ痘泡其形狀ヲ變スルコト無ク此日ヨリ收斂ヲ始メ泡ノ中央ヨリ邊縁ニ向ヒテ次第ニ乾固シ漸ク褐色ニ變シ周圍ノ紅血モ亦漸ク消退ス
爾後黯褐色又ハ黑色ニシテ堅實ナル厚痂ヲ結ヒ初ハ皮膚ニ緊著シテ容易ニ剝離セス結痂後八日乃至十日ニ至リ始テ剝脫ス其剝脫ノ後ニ遺セル痘痕ハ圓形又ハ橢圓形ニシテ淺キ凹窩ヲ爲シ其窩内ニハ更ニ數多ノ小凹點ヲ呈ス

但一回種痘セシ者ニ再三種シテ感染スルコトアルモ其痘類小ニシテ七八日間ニ全ク經過スルヲ常トス

- 第十三條 種痘不善感ノ諸徴ハ左ノ如シ
- 一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メ常形ニ違ヒスシテ直ニ廣ク蔓延セル炎症ヲ發シ皮下ニ硬キヲ覺ヘスシテ紅血ハ不整形ナリ痘泡ハ速ニ化膿シ其隆起ノ狀或ハ半球形或ハ圓錐形ト爲リ乾固スレハ黃色ニシテ鬆疎ナル痂皮ヲ結フ(時トシテ第二日後ニ成形ヲ始ムル者アレモ其經過總テ不整形ナルヲ以テ自ラ善感ノ者ト區別スルヲ得ヘシ又不善感ノ者ト雖モ腋下ニ疼痛ヲ覺ヘ微熱ヲ發スルコト無キニ非ス)
 - 二 接種後第一日ニ大ナル赤色ノ泡ヲ生シ速ニ漿液ヲ充實シ上皮破レテ膿面ヲ呈シ或ハ漏潤セル淡色ノ痂皮ト爲ルヲ見ル
 - 三 紅血速ニ増大シテ腫起シ或ハ遂ニ潰瘍ニ陥ル

四 第八日ニ至リ數泡相合シテ一大潰瘍ト爲リ或ハ一面ノ痂皮ヲ結ヒ其潰瘍又ハ痂皮ノ周圍ニハ廣ク赤色ヲ呈ス

五 痂皮剝脫ノ後ニ遺セル痘痕ハ深クシテ不整形ヲ呈シ其底面平滑ナリ

第五 種痘ノ注意

第十四條 初種ノ不善感ハ痘苗ノ不良ナルカ或ハ其人一時ノ不感性ヲ有セルニ因ル者ナルカ故更ニ三四週ノ後善感ナル痘苗ヲ選ビテ再ヒ接種スヘシ

第十五條 種痘ヲ施スニ當リテハ併發症ヲ防キ殊ニ天然痘流行ノ際ニハ接種後第八日ニ至ルマテハ嚴ニ其感染ヲ防禦スヘシ然レモ受痘者已ニ暗ニ天然痘ニ感染シ其潛伏期ニ於テ接種スルコト問々アリ

第十六條 天然痘流行シ種痘ヲ猶豫ス可カラサル際ニハ第一條各項ニ掲クル者ト雖熱性病ヲ除クノ外ハ總テ接種スヘシ

第十七條 種痘中ハ寒冷ヲ避ケシメ成ルヘシ清潔ノ空氣中ニ居ラシムヘシ平常慣習セル食物等ハ總テ禁忌スルニ及ハヌ又別ニ醫藥ヲ要セス

岡山縣令第拾三號 明治廿七年三月十三日
種痘規則施行細則左ノ通定ス
但明治十八年(十二月)本縣甲第百二十四號ハ廢止ス

種痘規則施行細則
第一條 種痘ハ各自信用ノ醫師ニ依頼スヘキハ勿論ト雖モ市町村長ニ於テ場所期日ヲ定メ召集ノ場合ハ其召集ニ應ジテ接種ヲ受クヘシ

但本文ノ場合ト雖モ醫師ニ對スル謝金ハ接種ヲ受クヘキ者ノ負擔トス

第二條 種痘ヲ受ケタル者ハ醫師ノ指定シタル日時及ヒ場所ニ於テ檢診ヲ受クヘシ
第三條 種痘ヲ受クヘキ者病氣或ハ事故アリテ種痘規則第四條ニ依リ届出ヲ爲シタルハ其病氣全癒又ハ事故落着ノ日ヨリ七日以内ニ市町村長ニ届出其指示ノ場所又ハ自己ノ信ズル醫師ニ就キ接種ヲ受クヘシ

第四條 醫師種痘ヲ檢診シ又ハ天然痘患者ノ全癒シタルハ左ノ書式ニ準ヒ證書ヲ附與スヘシ

證

縣(市)(町)(村)(大字番邸(寄留))

何某長次男兄弟姊妹

姓 名

生年月日

(左何順 善 感)

(不 善 感)

(右種痘初種(再三種臨時))

(天 然 痘)

用紙西ノ内ノ類寸法適宜

明治 年 月 日

郡(市)(町)(村)醫師

名 印

第五條 種痘者又ハ天然痘患者ハ醫師ヨリ種痘證書若クハ天然痘證書ヲ交付シタル日ヨリ七日以内ニ所轄

市町村長ニ差出シ檢印ヲ受クヘシ

訓令乙第拾九號

明治二十七年三月十三日

種痘規則取扱手續左ノ通相定ム

郡市役所 町村役場

種痘規則取扱手續

第一條 郡市長及ヒ町村長ハ各其部内ニ於ケル種痘規則ノ實行ニ注意シ種痘ノ普及ヲ期スヘシ

第二條 市町村長ハ別紙様式ニ倣ヒ該市町内ニ係ル種痘名簿ヲ調製シ出生又ハ種痘等届出ノ都度無遺漏各欄ニ記入スヘシ

第三條 他ニ轉籍スルモノアルトキハ市町村長ハ轉籍者ニ係ル種痘名簿ヲ謄寫シ之レヲ添籍狀ニ添付シ轉籍地市町村長ニ送付スヘシ

前項種痘名簿ノ送付ヲ受ケタル市町村長ハ入籍ノ手續ヲ爲スト同時ニ其入籍者ニ係ル種痘名簿ヲ調製スヘシ

第四條 市町村長ハ種痘又ハ天然痘患者ノ戶主ヨリ届出ニ係ル醫師交付ノ證書ニハ該公署ノ印ヲ押捺(証トアル文字ノ下ニ捺印スヘシ)シタル上其届出者ニ送付スヘシ

第五條 種痘ハ各自信用ノ醫師ニ依頼セシムヘキハ勿論ト雖トモ市町村長ハ尙ホ毎年(三月四月五月)(九月十月十一月)ノ兩度ニ於テ場所日時ヲ定メ種痘スヘキ者ヲ召集シ接種ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 前條ノ場合ニ於テハ市町村長ハ豫メ其場所日時ヲ記シ一面市長ハ直チニ町村長ハ郡長ヲ經テ縣廳ニ届出テ一面所轄警察官署ニ報告スヘシ

第七條 種痘規則第四條ニ依リ届出ヲ爲スモノアルトキハ市町村長ハ種痘名簿ノ事故欄内ニ届出ノ年月日及ヒ其事故ヲ記載シ其病氣全癒及ヒ事故落着ノ届出ヲ受ケタルトキハ年月日トモ全欄内ニ記載シ種痘スヘキ場所日時ヲ指示シ又ハ各自信用ノ醫師ニ就キ接種ヲ受クヘキ旨指示スヘシ

第八條 監獄署ヨリ拘禁中ノ刑事被告人又ハ囚人及ヒ懲治人ノ種痘又ハ天然痘患者全癒ノ通知ヲ受ケタルトキハ市町村長ハ速ニ第二條ノ手續ヲナスヘシ

附 則

一 現今調製アル種痘名簿ニシテ本手續第二條ニ示ス様式ニ違フモノハ漸次改正スヘシ(表ヲ察ス)

乙第二十号 明治十年一月廿二日

藥 舖 及 賣 藥

藥舖ノ儀ハ他ノ物品ヲ販賣スル商估ノ比ニ非ラスシテ藥物ノ善惡眞偽及調劑配合等ノ技ニ至ル迄略ホ心得スシテハ遂ニ不測ノ災害ヲ生スヘキモノニ付將來新ニ藥舖開業スルモノハ勿論從來營業ノモノナリトモ壯年

子弟ハ左ノ科目ニ因リ精々研究可致此旨右營業者へ無洩可相達候事

科目

一物理學大意

一化學大意

一藥物學大意

一處方學大意

乙第百六拾四號

明治十一年十一月卅日

郡區町村

本年(十一月)内務省甲第貳拾七號ヲ以阿片賣買并製造規則施行ノ日限布達相成候ニ付テハ猶又左件ノ通相達候條此旨該營業者へ無洩可相達候事

一管内藥舖營業者及阿片製造者ニ於テ現在所持ノ阿片ノ試驗ヲ要スルモノハ來ル十二月二十日限縣廳へ可差出司藥場へ送致試驗ノ上相當ノ品ハ小器ニ分チ印紙ヲ貼附シ下渡ヘシ其買上ヲ望ムモノハ定價ヲ以テ買上可シ品位不相當ノ品ハ其理由ヲ記シ持主ニ返付ス

但司藥場へ送致運搬費ハ願人ヨリ支辨致スヘキ事

一阿片製造人有之各地ハ阿片賣買并製造規則第十二條ニ準據シ免許鑑札ヲ願出ヘシ

甲第五十七號

明治十二年四月十日

從來酒類ニ藥品ヲ配伍シ販賣候者ハ賣藥免許鑑札下付致來候向モ有之候處右ハ賣藥ニ供スル別紙記載ノ品類ヲ除クノ外酒類ヲ和シ飲料ニ供スルモノハ假令藥品ヲ配伍スト雖モ自今總テ酒類賣買免許鑑札申受成規ノ税金上納可致此旨布達候事

但是迄下付致居候鑑札ハ返納可致事

酒精

精劑

再臨酒精

キフマン氏鎮痛液

甘硝石精

硝砂加阿魏精

アチーイム精

芳香硝砂精

カヤンイタ精

コロハフオルム精

梅藤皮精

核方杜松子精

核方フーヘンアル精

核方マムナツク精

核方薄荷精

椒性薄荷精

迷迭香精

セイルヒル精

双鷺菊精

非沃斯精

水陸精

コロン精

丁實精

茂

甘硝石精

硝砂白世精

核方アルモラニア精

核方精

龍騰皮精

桂皮精

山茱萸精

杜松子精

ラ松子精

樟樹精

英國縮葉薄荷精

薄荷精

肉豆蔻精

石酸精

芥子精

荳蔻精

實荳蔻精

高荳蔻精

ア芦花精

橙皮精

衛生調査上緊要ニ候條藥品製造人ハ毎年一月十日(前年十月ヨリ十二月迄)七月五日(一月ヨリ六月迄)其製造高ナ町村衛生委員ヘ可届出此旨布達候事

甲第四百四号 明治十四年六月十五日

賣藥附會及ヒ行商願ノ儀ハ是迄縣令名宛ニテ差出來リ候處來ル七月一日ヨリ郡區長名宛ニテ可差出此旨布達候事

乙第三拾号 明治十五年五月四日

郡區役所 戸長 役場

自今醫師藥師兼業ノ儀ハ不相成候條兼業ノ者ハ執レカ專業ニ歸候様可相達此旨相達候事

甲第四拾三號 明治十五年六月二十七日

藥舖藥種商取締人假規則左ノ通相定候條此旨布達候事

藥舖藥種商取締人假規則

第一條 藥舖藥種商取締人ハ藥舖藥種商ニ於テ藥品取扱上ノ取締ヲナス爲メ設クルモノトス

第二條 一郡區又ハ聯合郡區ニ於テ藥舖藥種商申合組合ヲ設ケ其組合中ヨリ一名又ハ二名ノ藥舖藥種商取締人ヲ選定シ郡區役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ヘシ

但時宜ニ依リ醫師化學家製藥家等ヲ選定スルモ妨ケナシ

第三條 藥舖藥種商取締人ハ時々其組合藥舖藥種商ヲ巡回シ藥品取扱規則(明治十三年一月第一号公布)及藥舖藥種商取締規則(明治十四年七月本縣甲第四百十八号達)ヲ遵守スルヤ否ヲ視察シ誤解ナカラシムルヲ要ス

第四條 藥舖藥種商藥品買入レノ節藥品取扱規則(明治十三年一月第一号公布)第二第三類ニ屬スル藥品ハ勿論其他ノ藥品ニシテ藥名ノ判然タルモ其形狀ノ尋常ナラサルモノ及新發明又ハ新舶載ニ係ル藥品ニシテ初メテ取扱フ品類其他則ニテモ疑點アルモノハ藥舖藥種商取締人ニ就キ調査ヲ受ケタル後ニアラサレハ販賣スヘカラス

但藥舖藥種商取締人ニ於テモ試験ヲ須ヒヤレハ判定シ難キ品種ハ郡區役所ヲ經テ縣廳ヘ申出ルルハ相當ノ處置アルヘシ

第五條 容器ニ藥名ノ記シナキモノ及ヒ其記シアルモ字義ノ解シ難キモノ等ハ自家ノ想像ヲ以テ藥名ヲ付スヘカラス必ラス前條ノ手續ヲナスヘシ

第六條 商標藥名等ヲ記載セル明瓶等ハ總テ其商標藥名等ヲ剝キ去リ再用ノ節藥名錯雜ノ恐ナキ様注意スヘシ

第七條 此取締ニ係ル費用ハ總テ其組合藥舖藥種商ヨリ支辨スルモノトス

乙第七拾九號 明治十六年八月七日

郡區役所 戸長 役場
衛生委員

賣藥營業者廢業候節ハ管内外ヲ問ハス請賣行商者之住所姓名等詳細記載併ヒテ可届出候該營業者ヘ無漏可相達此旨相達候事

但請賣行商無之分ハ其旨記載可爲致事

十六年九月八日

甲第四百四号

本年二月四日

告示第十号

岡山縣令第五十号

明治二十二年十一月十六日

印紙ハ載ス

船車煙草賣藥其他雜稅ハ載ス

格魯兒酸加溜漢(鹽素酸加溜漢又ハ鹽酸加里)ヲ賣買授受スル者(醫師藥劑師藥種商製藥者ヲ除ク)ハ豫メ其斤量及ヒ需用ノ目的ヲ明記シ左ノ書式ニ從ヒ賣主授主ノ管轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ

但警察官ハ臨時其現品ヲ検査スルコトアルヘシ
前項ノ手續ニ違反シ賣買授受ヲ爲シタルモノハ本縣違警罪トシ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料又ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

廿三年縣令
第四百九号
以テ除加

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

書式 (用紙半紙)

格魯兒酸加留誤

斤 量

右ハ(醫藥)(工職用等何々)必要ニ付前書ノ斤量(賣買)(授受)致度御認可被成下度候也

本籍何府(縣)何市(郡)何町(村)大字何々何番邸族籍

現住所何府(縣)何市(郡)何町(村)大字何々何番邸

(買主) (受主) 氏 名 實 印

年

何府(縣)何市(郡)何町(村)大字何々何番邸 族籍

(賣主) (授主) 氏 名 實 印

年

齡

年月日

警察署長又ハ分署長宛

岡山縣令第十一号 明治廿三年二月二十日

藥種商及製藥者取締細則左之通相定メ來ル三月一日ヨリ施行ス

但明治十五年(八月)岡山縣甲第四十七号布達製藥免許手續及明治廿一年(六月)岡山縣令第四十九号藥種商及製藥者商取締規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

藥種商及製藥者取締細則

第一條 藥種商又ハ製藥者ヲラント欲スルモノハ其住所族籍氏名生年月ヲ詳記シ縣廳へ願出免許鑑札ヲ受ケルベシ

第二條 藥種商又ハ製藥者免許鑑札ヲ毀損亡失シ又ハ住所族籍氏名ノ變換家名相續等鑑札面ニ異動ヲ生シタル由ヲ由ラレテ十日以内ニ其書換ヲ縣廳へ願出シベシ

第三條 藥種商又ハ製藥者廢業若クハ死亡或ハ他管下へ轉住スル等ノ節十日以内ニ免許鑑札ヲ縣廳へ返

廿三年縣令
第二十五号
聯合第三十
六号縣令第
三十九号ヲ
以テ加除ス

納スヘシ

第四條 藥種商又ハ製藥者ヨリ差出ス諸願届ハ所轄町村長ノ連署及郡市長ノ與書ヲ要ス

第五條 藥種商ニ於テ數容器ニ分チタル藥品又ハ製藥者自己ノ製品ニハ其容器ニ一定ノ封印ヲ爲スヘシ

第六條 藥種商製藥者ニ於テ使用スル藥品容器封緘用印紙ノ衛生試驗所檢査印紙ニ紛ハシキモノト認ムルトキハ改訂ヲ命スルコトアルヘシ

第七條 藥種商ニ於テ一容器ノ製品ヲ更ニ數容器ニ分ツトキハ其分チタル容器ニ製造者(藥品製造會社)ノ所在地名及ヒ會社名)若クハ外國藥品引取人ノ住所氏名ト自己ノ住所氏名トヲ併記スヘシ

但毒藥劇藥ハ封緘ヲ開キテ小分スルコトヲ得ス

第八條 藥種商製藥者ハ醫藥用品ト他用品トヲ區別シ置クヘシ

製藥原料藥品(藥局製劑例之セハ水劑 硬膏劑 越幾斯篤拉屈篤劑 抓發油類 丸劑 舍利別劑 丁殼

手兒劑 錠劑 軟膏劑 酒劑 浸劑 擦劑 紙劑 臨時可製藥等)ヲ除ク

繪具染料用 香油香水等製造用 飲食物用 工職用 化學試驗用 外國輸出藥品ハ明治廿二年(三月)法

律第十号藥品營業并藥品取扱規則第六條第七條ニ依ルヲ要セス

第九條 製藥者ハ毎年製造シタル藥品名及數量(醫藥用品ト他用品トヲ區別スヘシ)ヲ詳記シタル表ヲ作リ

其翌年一月三十一日限リ縣廳へ差出スヘシ

第十條 藥劑師ニシテ藥局ヲ開設セス單ニ藥品販賣及製藥ノ業ヲ營マントスルモノハ第一條ノ免許鑑札ヲ

受クルニ及ハスト雖モ第一條ニ準シ届書第二條第三條及第七條但書ヲ除クノ外渾テ本則ヲ遵守スヘシ

但管内外ヲ問ハス轉住スルトキハ十日以内ニ届出ヘシ

第十一條 藥種商及製藥者ハ左ノ雜形ニ據リ看板ヲ製シ店頭其他見易キ場所ニ掲ケ置クヘシ

藥種商看板

岡山縣何國何市何町

寸法山尺
縱一尺五寸

雜

岡山縣何國何市何町

寸法山尺
縱一尺五寸

免許藥種商 何 某
但藥劑師ハ單ニ藥劑師ト記スヘシ

横五寸
用材適宜

形

免許製藥者 何 某
但製藥師ハ單ニ藥劑師ト記スヘシ

横五寸用
材適宜

第十二條 第二條第三條第五條第七條第八條第十條ニ違背シ又ハ第六條ノ命令ニ違ハサルモノハ刑法第四

百廿六條第四項ニ依リ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

岡山縣告示第十三号 明治廿二年二月廿五日

明治廿三年二月岡山縣令第十一号 總商及製藥者取締規則施行以前ニ於テ内務省下付ノ製藥免許証所持ノモノト雖モ該規則ニ依リ縣廳ニ願出テ更ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

岡山縣令第三十号 明治廿三年五月十五日

賣藥部外品販賣取締規則左ノ通り相定メ來ル七月一日ヨリ施行ス
但從來許可シタル者ハ來ル六月二十日迄ニ更ニ本則ノ手續ヲ爲スヘシ

賣藥部外品販賣取締規則

第一條 賣藥部外品トハ風取リ蠅取取造リ蚤取リ虱取リ染髮料涅齒料防臭劑防腐劑等治病ヲ目的トセシテ藥品ヲ以テ製シタル者ヲ指稱ス

第二條 賣藥部外品ヲ製造販賣セントスル者ハ其名稱配伍分量製法用法功能等ヲ記載シタル書面ニ製品ヲ添ヘ縣廳ニ願出テ免許鑑札ヲ受ヘシ

第三條 賣藥部外品ニシテ他管下ニ於テ製造シ其免許ヲ得タルモノト雖モ當縣下ニ於テ販賣セントスル者ハ第二條ノ手續ヲナスヘシ

第四條 免許ヲ受タル賣藥部外品ノ名稱配伍分量製法用法功能等ヲ變更セントスルハ其事由ヲ記シテ第二條ノ手續ヲナスヘシ

第五條 賣藥部外品營業者コシテ請賣又ハ行商ヲナシムルハ請賣者又ハ行商者タラシメタルノ證書ヲ該營業者ヨリ交付シ置クヘシ其請賣者ニシテ行商ヲナシメントスルモ亦同シ他管下ニ於テ請賣又ハ

行商ヲナシメントスルハ部テ其管轄廳ニ定ムル規則ニ從フヘシ

但請賣及行商ノ證書ハ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第六條 賣藥部外品ノ營業ヲ他人ニ讓渡サントスル時ハ雙方連署シテ免許鑑札ヲ縣廳ニ願出ヘシ

第七條 賣藥部外品營業者免許鑑札ヲ毀損亡失シ又住所族籍氏名變換等免許鑑札面ニ異動生シタルハ事由ヲ記シ十日以内ニ其書換ヲ縣廳ニ願出ヘシ

第八條 賣藥部外品營業者廢業シ若クハ死亡シタルハ十日以内ニ他管下ニ轉居スルハ即時免許鑑札ヲ縣廳ニ返納スヘシ

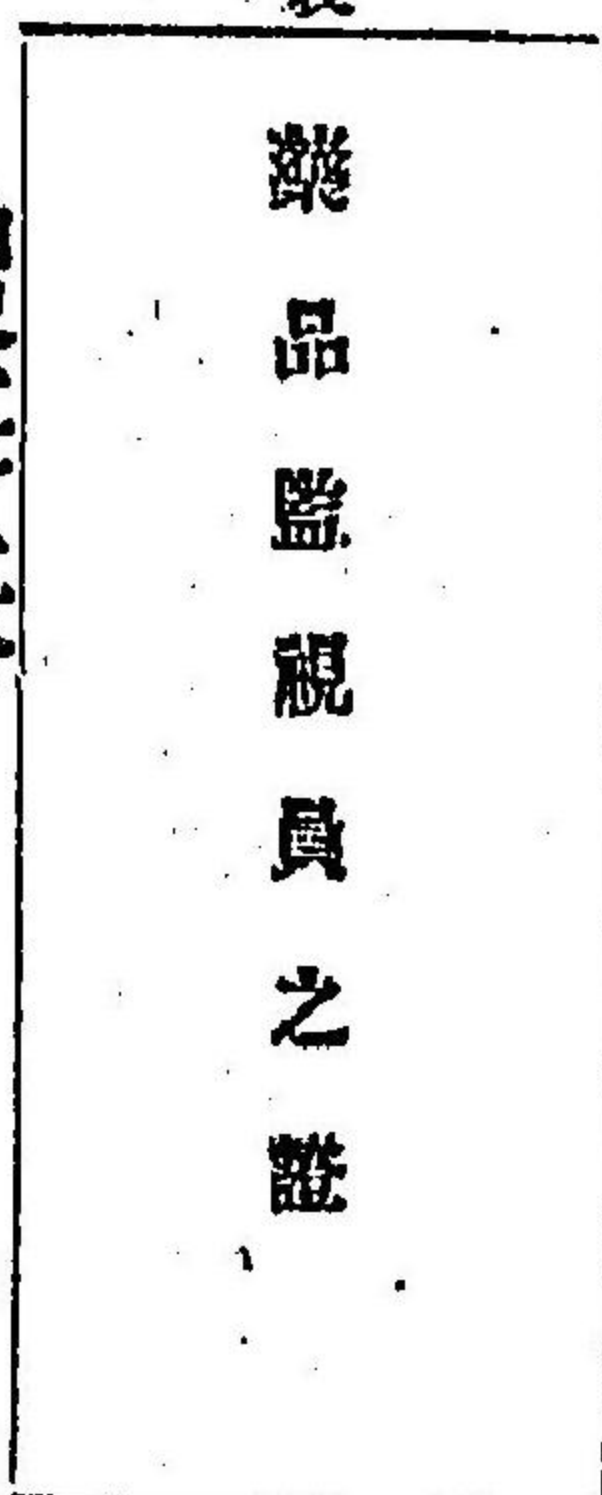
第九條 賣藥部外品營業者ヨリ差出ス諸願届ハ町村長ノ連署郡市長ノ與書ヲ要ス

第十條 第二條第三條第四條第五條第六條第七條第八條ニ違背シタル者ハ刑法第四百三十六條第四項ニ依リ五十錢以上壹圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

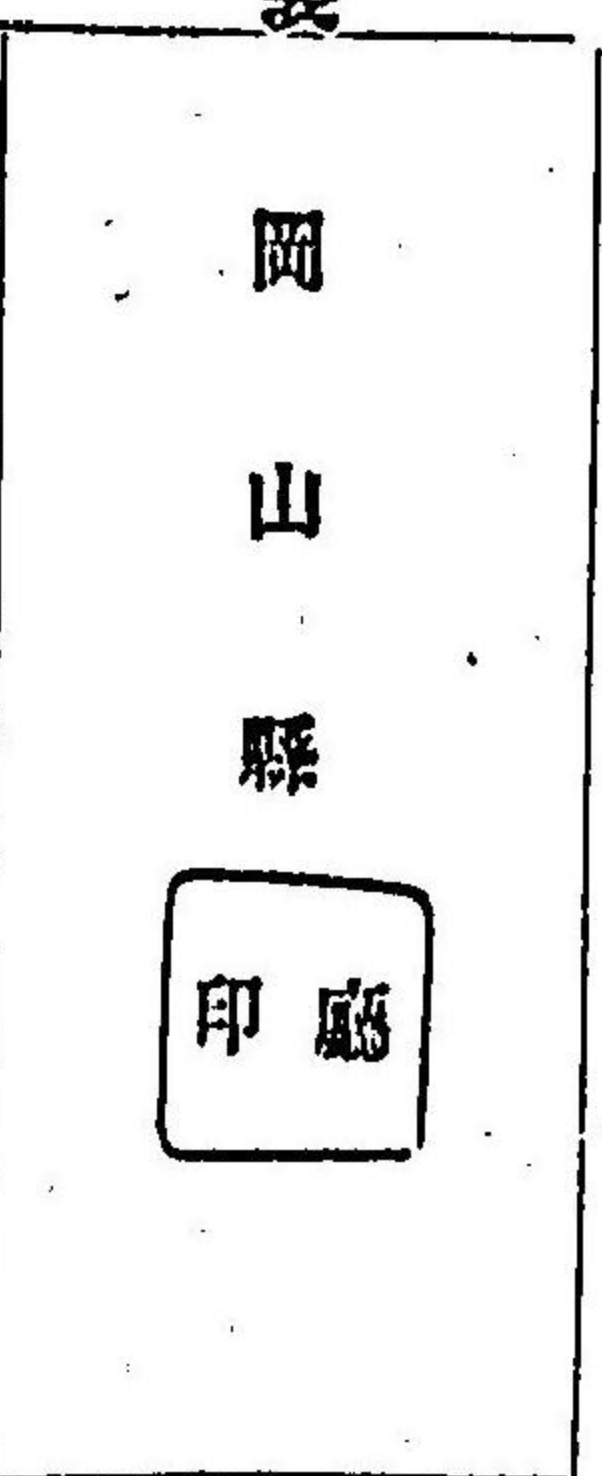
岡山縣告示第四号 明治廿五年一月十九日

明治廿二年(三月)内務省令第四号 藥品巡視規則ニ依リ藥品監視員ニ左ノ證書ヲ携帶セシム

表 藥品監視員之證



裏 岡山縣



曲尺二寸二分

岡山縣令第十五号 明治廿五年四月八日

賣藥營業免許鑑札料登記印紙貼用方ハ願書ニ印紙ヲ貼用セス鑑札下付ノ際印紙ヲ貼用シタル領收紙ヲ差出スヘシ

檢 綴

明治二十七年三月十三日

岡山縣令第拾四號
驅癩院規則左ノ通相定ム

驅癩院規則

本令ハ明治二十七年十月一日ヨリ施行ス

第一條 驅癩院ハ癩毒ニ罹リタル娼妓ヲ入レ治療ヲ施ス所トス

第二條 驅癩院ヲ分チ本院分院トス其位置所屬左ノ如シ

本院 岡山驅癩院

位置岡山市大字西中嶋町
所屬岡山市大字西中嶋町、東中嶋町

上道郡西大寺村、九野村

賀陽郡真金村

淺口郡寄嶋村、柏崎村

窪屋郡倉敷町

小田郡笠岡町

上房郡高梁町

邑久郡牛窓村

分院 日比驅癩院

位置兒嶋郡日比村大字日比
所屬全郡日比村、下津井村

分院 津山驅癩院

位置西北條郡津山町
所屬全町

第三條 娼妓癩毒ニ罹リタルトキハ直チニ入院セシメ他所ニ在ルコトヲ許サス

第四條 驅癩院所在地外ノ場所ニ於テ營業セル娼妓癩毒ニ罹リタルトキハ檢癩所ノ指揮ニ從ヒ即日所轄驅癩院ニ入ルヘシ其往復ノ費用ハ自辨トス

但本文ノ場合ニ於テ取締人(差支アルトキハ代理人)ハ途中其患者ニ附添入院ノ手續ヲ爲スヘシ退院ノ

トキ驅癩院ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ出頭シ(代理人ナルトキハ委任狀携帶)其引渡ヲ受ケヘシ

第五條 入院患者ハ癩毒全治スルニテアラザレハ退院スルコトヲ許サス

第六條 入院患者全癒シタルトキハ驅癩院ヨリ全治ノ証明書ヲ附與スヘキヲ以テ驅癩院所在地外ニ於テ營業セルモノハ復業前其証明書ヲ添ヘ全癒ノ旨營業地檢癩所ニ届出テ無毒証ノ下付ヲ請フヘシ

第七條 入院患者ニシテ他病併發シ院外ニ於テ治療セシムヘキモノト認ムルトキハ特ニ退院セシムルコトアルヘシ

第八條 入院患者ノ食料臥具其他自用ノ物品ハ總テ自辨トシ治療ニ關スル諸費及薪炭油ハ院費トス

第九條 入院患者驅癩院ニ於テ遵守スヘキ規則ハ別ニ之レヲ定ム

附 則

一 本則ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

傳 染 病 豫 防

告示第九拾七號 明治十七年七月三日

水害後流行病ノ發生スルハ往々其証跡ニモシカラス因テ之レカ豫防法ヲ要スルハ衛生上緊要ノ事ニ付曾テ衛生局ニ於テ壕國政府ノ衛生條例中ヨリ抄譯シタル水害後豫防法ヲ掲記シ爲心得告示候事

第一條 先ツ井ヲ浚フヘシ汚敗ノ濁水ヲ汲ミ去リ汚泥ヲ浚ヒ不潔物ヲ除キ然ル後汚水再ヒ出テハ復タ之ヲ汲ミ去リ其水ノ清澄無臭且ツ不快ノ味ナキニ至リテ後之ヲ飲用ニ供スヘシ

第二條 洪水ニ遇ヒテ久シク汚水ニ浸リタル家ハ退水ノ後清水ヲ以テ悉ク牀、柱、壁、天井等ヲ洗ヒ殊ニ朝夕起臥スル居室并ニ食物ヲ貯製スル庖厨、物置等ハ丁寧ニ洗淨スヘシ又屋內ニ存留シタル衣箱、米櫃、膳

具等總ヘテ木製ノ家具ハ又皆洗淨シ然ル後尙ホ汚痕ヲ見ルコト有ラハ再三之ヲ洗フヘシ

第三條 善ク牀、壁及ヒ牀下ノ土壌ヲ乾カスヘシ又家具、衣類等モ乾燥スルニ至ラザレハ之ヲ用フヘカラ

ス乾燥法ハ室內ニ於テ焚火ヲ爲シ時々窓戶ヲ開キテ乾燥ノ際ニ發スル惡氣ヲ驅出スヘシ

第四條 大氣及ヒ日光ハ室內ニ鬱著シタル惡氣ヲ淨除シ且室内ヲ乾燥セシムル者ナレハ清期ノ日ハ必ス日

窓戸ヲ開キ充分ニ大氣日光ヲ通セシムヘシ

第五條 被壁ヲ修繕スルハ壁土ノ全ク乾燥シタル後ニ至リテ其家ニ住居スヘシ且前條云ヘルカ如ク室内ニ充分大氣日光ヲ通透セシメントスルニハ修繕ヲ行フ一早キニ失スヘカラス

第六條 牀板ヲ剝シヘシ牀下ノ土壤ヲ乾カスニハ極メテ長シトス其地ノ土質水ヲ吸込マサル時ニハ殊ニ之ヲ行フヘシ

以上掲ケル所ノ清潔法及ヒ乾燥法ヲ行ハスニテ舊屋ニ復住スルハ不測ノ疾病ヲ發スルノ悞アリ然レモ若シ已ムテ得ヌニテ速ニ住セシト欲スルハ次ニ舉ケル數項ノ注意ヲ用フヘシ

(甲) 身體ヲ温包シ時々洗濯シタル衣服ヲ着換フヘシ

(乙) 成丈ケ温物ヲ食シ時々酒ヲ用ヒ又或ハ加密列、薄荷葉、接骨木花等ノ浸劑ヲ温服スヘシ

(丙) 時々火ヲ焚キテ室内ノ濕ヲ拂フヘシ但然ル時ハ戸ヲ開キテ空氣ヲ代換セシムルヲ要ス夜間臥ニ就クノ前ニ於テハ殊ニ然リトス

(丁) 置戸棚、箆等ノ如キ家具ハ惣テ壁際ヨリ一尺許離シ置クヘシ是ノ壁中ノ濕氣蒸散スルヲ妨ケサランカ爲ニシテ且ツ衣服ノ如キハ濕ヲ引キテ變色微敗スルノ憂アレハナリ

(戊) 穀物及ヒ繭ヘテ食物ニ供スル物ヲ貯フル場處ハ早ク乾燥法ヲ行フヘシ是濕潤ノ中ニ貯ヘタル物ハ食シテ害アルカ故ナリ

十八年十月廿四日

甲第百五号

達乙第拾號

傳染病患者届方醫師心得

醫師及産婆ニ載ス

明治二十一年二月十四日

郡區役所 戸長役場

無告ノ窮民ニシテ傳染病ニ罹リタルトキ隣保ノ情誼又ハ町村ノ協議ヲ以テ治療手當ヲナシ規則ノ通り豫防消毒法ヲ施行シ病勢ヲシテ他ニ傳染セシメサル様處置スヘシ若シ病勢盛ニシテ一時夥多ノ患者ヲ發生シ町村隣保ノ力ニテ救助シ能ハサル場合ニ於テハ左ノ費目ニ限り救助可致ニ付豫防消毒上其機ヲ失セサル様致スヘシ尤救助出願ニ付テハ郡區長及戸長ニ於テ其實況ヲ審查シ詳細狀ヲ具シ其實ヲ誤ラサル様致スヘシ

但明治十五年五月當縣乙第三拾四號及十九年二月乙第貳拾五號達ハ廢止ス

救助費概目

- 一 醫師診察料
- 一 治療費
- 一 消毒藥費
- 一 雜具費
- 一 汚穢物取捨人足賃
- 一 埋火葬費
- 一 小屋掛料

右概目ノ計金患者一人ニ付凡ソ四圓以内トス

訓令乙第拾四號

明治二十四年四月二十五日

客年ノ虎列刺病ハ年末ニ至リ一旦終熄セシト雖モ散發ノ患者ハ延テ本年ニ及ヒタル地方モ有之之ヲ明治十二年十五年十九年ノ實歴ニ徴スルニ病勢將ニ發動セントスル機ヲ伏セリ客年該病ノ流行セシ土地ハ勿論其

他傳染病發生ノ虞アル土地ニ於テハ豫防上清潔法ヲ行フヲ以テ目下ノ急務ナリトス抑モ傳染病ノ發生ヲ豫防スル爲清潔法ノ緊要ナルト其實施ノ手續等ハ已ニ屢々訓令セシナリ以テ今又其反覆ヲ要セサルカ如シト雖

モ今年ノ危險ハ半年春夏ノ候ニ際シテ憂慮スルノ比ニアラサルト市町村制實施ノ今日ニ於テハ傳染病豫防ノ如キハ主トシテ自治ノ事業ニ屬シ清潔法施行ノ手續ニ於テモ大ニ從前ト其趣ヲ殊ニスル所アルヲ以テナ

リ清潔法ノ施行固ヨリ市町村ノ事業ナリト雖トモ單ニ市町村通常吏員ノミニ於テ行届キ得ヘキニ非サルヘシ且ツ其事ノ學術上ニ關スルモノアルヲ以テ此際特ニ該施行ヲ任スヘキ委員ヲ設ケ市町村會議員醫師及ヒ

德望アルモノヲ以テ之ヲ組織シ其實施ヲ擔任セシムルヲ可トス而テ郡役所ヨリハ時々衛生主務ノ書記ヲ派

出シ其方法手續ヲ督察指導シ自治的豫防ノ方法ヲ明ニシ眞成着實ノ發達ヲ謀ルヲ要ス又清潔法施行ニ於テ

ハ一時多額ノ費用ヲ擲チ銳意乾淨チカメタルモノモ日ナラスシテ舊時ノ汚穢ニ復シ殆ソト前効ヲ沒スルモ

ノ其例少ナカラス故ニ清潔法ヲ施行スルニ當テハ同時ニ持續ノ方法ヲ設ケ長ク清潔ヲ保チテ其豫防ノ効力

ヲ失ハシメサルコトヲ要ス左ニ清潔法施行ノ要領ヲ列記スルニ付之ニ準據シテ實行スヘシ

明治二十年(二月)訓令第八號ハ廢止ス

清潔法施行ノ要領

- 一 郡市役所ニ於テハ清潔法ヲ實行スヘキ町村部落等ヲ豫定シ其町村若シハ部落毎ニ清潔法實行ノ時日ヲ定メ之ヲ行ハシムルヲ要ス但本項ハ所轄警察官署ト協議スヘシ
- 一 郡市役所ニ於テハ清潔法ヲ施行スヘシト指定シタル町村部落及施行ノ月日其計畫手續等當廳内務部ヘ報告スヘシ
- 一 市町村ニ於テハ清潔法施行委員等ヲシテ各戸ノ邸内ヲ巡視セシメ不潔ノ箇所アレハ其掃除ノ仕様ヲ示シ若シ掃除ヲ怠ルモノアリ再三督促スルモ肯セサルモノハ警察官吏ニ説諭ヲ請求スル等ノ方法ヲ設クルヲ要ス
- 一 市町村ニ於テ清潔法ヲ施行シタルトキハ市ハ縣廳内務部町村ハ郡役所ニ報告シ郡吏(市ハ縣官)及警察官ノ實査ヲ受ケ若シ不充分ナル所アリト認メタルハ再ヒ施行スルヲ要ス
- 一 但内務部及郡役所ニ於テ關係警察官署ニ通報スヘシ
- 一 市町村ニ於テハ平常清潔法保持ノ爲メ衛生組合等ノ方法ニ依リ其利害ヲ共ニセシメ巡視督促等ノ手續ヲ設ケ清潔法ヲ怠ラサルヲ要ス汚穢ノ本源ハ各家ノ庭便所汚濁浴場等ノ諸廢物ヨリ絶エス生長シ清潔ヲ保チ難キモノナレハ最注意スヘシ
- 一 又市町村ニ於テハ常ニ清潔法ノ行届クヤ否ヤニ付警察官ノ巡視ヲ受ケ若シ不潔ノ箇所アレハ其私有ニ係ルモノハ持主ヲ督責シテ掃除ヲナサシメ又市町村ノ負擔ニ係ルモノハ其報告ヲ受ケ速ニ掃除ヲナス等ノ方法ヲ設クルヲ要ス
- 一 此清潔法ヲ實行スヘキ場所大約左ノ如シ
 - 共用便所
 - 下水汲及溝渠
 - 共用井溜
 - 惡水溜溜ノ場所
- 一 清潔法施行ニ付下水汲溝渠等ノ構造閉塞井溜等ノ改造ハ其土地ノ情況ニ應ジ左ノ諸方ヲ斟酌實行スルモノトス

一下水溝

- 第一方 煉瓦ヲ以テ卵圓形ノ暗渠ヲ疊ミ吐口ニ至ル迄漸次ニ勾配ヲ付シ之レヲ無害ノ地若クハ河水ニ通シ此暗渠ヲ本幹トシ之ニ陶製又ハ煉瓦石材ヲ以テ構造シタル支管ヲ接続シ一切ノ汚水雨水ヲ排除スルモノ
 - 第二方 溝底周圍ハ切石木板漆喰叩キ又ハ其他ノ材料ヲ以テ築造シ成ルヘク覆蓋ヲ設ケ汚水雨水ヲ無害ノ地若クハ河水ニ排除スルモノ
 - 上方ニ方ヲ施スコト能ハサル場合ニ於テハ止ムコトヲ得ズ如何ナル築造ニ論ナク一切ノ汚水雨水ヲ阻滯壅塞セシメスシテ之ヲ無害ノ地若クハ河水ニ排除スルノ方法ヲ設クルモ妨ナシ
 - 一 閉塞
 - 第一方 閉塞ハ其質緻密ナル木材等ヲ以テ移動スヘキ閉塞ヲ作り之ヲ閉塞ニ代用シ尿管ノ漏ツルニ先チ全標ナル他ノ受器ト交代シテ之ヲ送去スルモノ
 - 第二方 閉塞瓷衣ヲ有スル陶器ヲ用テ之ヲ地中ニ埋メ其周圍ノ表面ハ漆喰叩キ等ヲ以テ漏斗狀ニ築造シテ閉塞ニ造スルモノ
 - 上方ニ方ヲ施スコト能ハサル場合ニ於テハ止ムコトヲ得ズ如何ナル築造ニ論ナク閉塞及其周圍ノ尿管地中ニ浸透セシメサル構造ニナスモ妨ケナシ
 - 一 井溜
 - 第一方 井溜ハ蓋ヲ有シ塵芥ヲ掃除スルニ便ナル箱若シハ直ニ運搬スルヲ得ベキ受器ヲ設置スルモノ此方法ヲ施スコト能ハサル場合ニ於テハ止ムコトヲ得ズ如何ナル構造ニ論ナク汚汁ヲシテ地中ニ浸透セシメサル設置ヲ爲スモ妨ケナシ
- 岡山縣令第五十二号 明治二十六年九月二十六日
傳染病豫防心得左之通相定
但明治十四年(三月)當縣諭達甲第五十六號傳染病豫防心得同十八年(十月)當縣達乙第百三號傳染病豫防
戸長心得ハ廢止ス

傳染病豫防心得

總則

- 第一條 市町村ニ於テハ便宜衛生組合ヲ設ケ清潔法攝生法其他傳染病豫防ノ事ニ付キ規約ヲナシ之ヲ履行スヘシ
- 第二條 醫師傳染病者ヲ診斷シタルトキハ時ヲ移サス成規ノ通知ヲナスハ勿論此心得各病ノ部ニ掲ケタル豫防法ヲ病家ニ懇諭スヘシ
- 第三條 市町村衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ傳染病者ヲ診斷セシ旨醫師ノ通知ニ接シタルトキハ速ニ病家ニ臨ミ病室器具被服及ヒ便所等ノ消毒ヲ行フ等相當ノ處分ヲ怠ラサルヘシ
- 第四條 市町村衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ醫師ノ通知ニ接セザル傳染病者ニ疑ハシキ患者アルトキハ醫師ヲシテ之ヲ診察セシメ其見込ニ從ヒ豫防消毒ノ處置ヲ爲スコト前條ノ如クナルヘシ
- 第五條 傳染病者治癒又ハ死亡シタルトキハ村衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ患者ノ身體若シクハ死屍看病人患者ノ居室其他病室ニ汚染セル衣服器具等ニ消毒法ヲ行フヘシ
- 第六條 傳染病患者ノ自宅治療ヲ爲セル家ニハ市町村衛生主務吏員又ハ警察官吏時々之ヲ巡視シテ豫防ノ方法ヲ守ルヤ否ヤニ注意シ又時宜ニ依リテハ人夫ヲシテ病室ニ汚染セルモノヲ取集メシメ消毒法ヲ行フヘシ
- 第七條 消毒法ノ實施ニ從事シタル吏員人夫等ハ其都度消毒法ヲ行ヒ又患者及汚穢物運搬器具等モ使用シタル毎ニ消毒法ヲ施スヘシ
- 第八條 此心得中ニ掲ケタル各病豫防消毒ノ方法及消毒藥ノ分量並ニ調製法ハ渾テ本年當縣告示第百号ニ載スル所ニ據ルヘシ
- 第九條 虎列刺患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヘシ
 - 一 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト

- 二 患者自宅ニ於テ消毒看病房屆キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ヲラシメ斷ニス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 患者用ノ便器ニハ覆蓋ヲ備ヘ且ツ漆漏ノ虞ナキモノヲ選ミ豫メ適宜ノ石灰乳又ハ生石灰若シクハ石炭酸水ヲ入レ置キ吐瀉物ヲ承ケタル後更ニ前記ノ消毒藥ヲ澆キ其吐瀉物ハ成ルヘク之ヲ撈却スルコト
- 五 患者ノ上リタル便所ニハ少ナクモ糞便量十分一ノ石灰乳五十分一ノ生石灰若クハ五分一ノ石炭酸水ヲ澆キ能ク攪拌シ爾後患者ノ上ル毎ニ前記ノ消毒藥ヲ澆クコト
- 六 患者ノ用ヒタル衣服臥具敷物飲食器其他看病人ノ衣服等總テ患者ノ吐瀉物ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑ヒアルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト
- 七 患者ノ身體吐瀉物及ヒ之ニ汚染セル物ニ蚊蠅等ノ集マラサル様注意シ又患者ノ居室ニ蚊帳ヲ張ルトキハ其蚊帳ノ吐瀉物ニ汚染セサル様注意スルコト
- 八 看病人ハ其衣服ヲ患者ノ吐瀉物ニ觸レサル様注意シ且ツ其吐瀉物及ヒ之ニ汚染セル物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ充分ニ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト
- 九 患者ノ居室ニ入レタル飲食物ハ患者ノ外洗シテ飲食スヘカクサルコト
- 十 患者ト居テ同フスル者ハ特ニ飲食物ニ注意シ飲料水ハ必ス煮沸セサルハ用ヒサルコト
- 第十條 虎列刺病發生シタルトキハ衛生組合若クハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヘシ
 - 一 患者アル家トナルヘク交通ヲ爲ササルコト
 - 二 病家ノ井水ヲ他家ニ於テ共通セサルコト但巳チ得ザルトキハ煮沸シテ後之ヲ用フルコト
 - 三 井溜ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、下水ノ溢流澆潤ヲ防キ且ツ下水溝ノ破損セルモノハ速ニ改修スルコト
 - 四 飲食物ハ成ルヘク熱燻シテ用ユルコト
 - 五 總テ下痢ヲ發シタルモノハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケ且ツ其下痢患者ノ上レル便所ニハ石灰乳又ハ生石灰石炭酸水ヲ澆クコト

第十一條 虎列刺流行ノ際下痢若クハ吐瀉スル者アルトキハ其瀉下物吐出物ニ石灰乳又ハ生石灰又ハ石炭酸水ヲ灌キ醫師ノ診察ヲ乞フヘシ

第十二條 虎列刺發生ノ初市町村衛生主務官吏又ハ警察官吏ニ於テ其蔓延ヲ防キ得ヘシト認ムルトキハ左ノ標準ニ依リ交通遮斷ヲ施行スルコトアルヘシ

一 患家一軒立ナルトキハ一家ヲ遮斷ス但一家ト雖モ別棟等判然區別スルヲ得ヘキトキハ其部分ノ遮斷シ又極メテ病家ニ近接シタル家屋不潔狹狭ニシテ病毒ヲ傳播スルノ虞アルトキハ其狀況ニ依リ隣家ヲ遮斷スルコトアルヘシ

二 前項及傳染病豫防規則第十五條第二項ノ場合ニ於テ交通遮斷ヲ施行スルトキハ遮斷部分ノ區域ヲ明示シ醫師掛吏員人夫等職務上要用アルモノ、外他ト交通ヲ制止スルコト

三 交通遮斷施行中ノ家ニ於ケル日用品買入等ノ用務ハ近隣ノ人又ハ適宜ノ取扱人ヲ定メテ之ヲ辨セシムルコト

四 交通遮斷中ハ市町村衛生主務官吏又ハ警察官吏ニ於テ其区域内ノ清潔法等ニ注意スルハ勿論醫師ヲシテ区域内ノ各家ヲ巡診セシメ且ツ豫防法ヲ諭示セシムルコト

第十三條 遮斷區域内若クハ曾テ虎列刺ノ流行アリシ不潔ノ場所ニ於テハ左ノ方法ニ依リテ消毒的清潔法ヲ施行スルコト

- 一 下水ニハ先ツ生石灰又ハ石灰乳ヲ投シテ能ク攪拌シ次ニ多量ノ水ヲ以テ洗滌シ十分ニ疏通セシムルコト
- 二 井溜ノ塵芥ハ成ルヘク之ヲ燒却シ若燒却シ得ザル場合ニ於テハ石灰乳ヲ周テ撒布シテ他ノ無害ノ場所ニ運搬シ其取除キタル跡ニ尙ホ生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト
- 三 家屋ニハ左ノ方法ニ依リテ大掃除ヲ爲スコト

第十四條 虎列刺流行ノ虞アルトキハ其市町村ニハ左ノ豫防法ヲ施行スヘシ

- 一 茅溜ヲ掃除シ下水ヲ浚深シ破損セル井戸ハ之ヲ修理スル等一般ニ清潔法ヲ施行スルコト
- 二 路傍便所及共同便所ニハ日々生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト
- 三 醫師ヲシテ住民ノ家屋不潔狹狭ナル部落ヲ巡診セシムルコト

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ醫師市町村官吏等ニテ便宜豫防委員ヲ設ケ豫防消毒ノ事ヲ擔任セシムヘシ

第十六條 鴨窠扶私又ハ之ニ疑似セル熱性患者アル家ニハ左ノ豫防法ヲ守ルヘシ

- 一 患者ノ居室ニハ無用ノ交通ヲ絶ツコト
- 二 患者自宅ニ於テ消毒看病行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依テノ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ニス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 患者ノ糞便ヲ取扱フニハ其人ヲ定メ置クコト
- 五 患者用ノ便器ニハ蓋蓋ヲ具ヘ且ツ浚漏ノ虞ナキモノヲ選ミ豫メ之ニ適宜ノ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ入レ置キ糞便ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト
- 六 患者ノ上リタル便所ニハ少クモ糞便量十分一ノ石灰乳五十分一ノ生石灰若クハ五分一ノ石炭酸水ヲ灌キ能ク攪拌シ爾後患者ノ上ホル毎ニ前記ノ消毒藥ヲ灌クコト
- 七 患者ノ用ヒタル衣服臥具敷物飲食器其他看病人ノ衣服等總テ患者ノ糞便ニ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フヘシ
- 八 患者ノ身體糞便及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊蠅等ノ集マラサル様注意シ又患者ノ居室ニ蚊帳ヲ張ルト

- 一 患者アル家ノ兒童ハ其患者全治又ハ死亡シタル後又他家へ避ケシメタルトキハ其避ケタル日ヨリ三週間ヲ經ル迄登校入園ヲ禁スル事
 - 二 兒童中咳嗽又ハ發熱スル者アルトキハ速ニ退場セシメ且ツ醫師ノ治療ヲ受ケシムルヘキ旨ヲ其家人へ報告スルコト
 - 三 生徒ノ欲席敷日ニ及フモノアルトキハ其家ニ就テ欲席ノ理由ヲ問フコト
 - 四 出頭時刻ヲ晚クシ退散時刻ヲ早クシ兒童ヲシテ朝暮寒冷ノ氣ニ觸レシメサルコト
 - 五 唱歌及其他高聲ヲ發スル課業ヲ停止スルコト
 - 六 教場ハ一層清潔ニ掃除シ休息時間ニハ悉皆窓戶ヲ開放シ充分ニ空氣ヲ流通セシムルコト
 - 七 教場内處々ニ適宜ノ瓶壺等ヲ備ヘテ之ニ石炭酸水ヲ入レ置キ生徒ノ痰唾ハ此器中ニ吐カシムヘシ
- 第二十五條 前條ノ場合ニ於テハ醫師市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシメ又其病勢ニ依リテハ小學校幼稚園ヲ閉鎖スルコトアルヘシ
- 發 疹 室 扶 私
- 第二十六條 發疹室扶私又ハ之ニ疑似セル熱性患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヘシ
- 一 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外人ノ交通ヲ絶ツコト
 - 二 患者自宅ニ於テ消毒看病人履キ難キモノ及ヒ患者若クハ家人ノ望ニ依テハ避病院又ハ適當ノ家屋ニ移シ治療ヲ受ケシムルコト
 - 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ニス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
 - 四 看病人患者ノ居室ヲ出ルトキハ石炭酸水又ハ昇永水ニテ充分ニ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト
 - 五 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ患者糞尿ヲ受ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト
 - 六 患者ノ用ヒタル衣服臥具敷物飲食器其他總テ患者ノ身體ニ觸接セルモノ及ヒ看病人ノ衣服ハ之ヲ取廻メテ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒ヲ行フコト
- 第二十七條 發疹室扶私發生シタルトキハ衛生組合若クハ病家近傍各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヘシ

- 一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サハルコト
 - 二 家屋ヲ清潔ニシ空氣ノ流通ニ注意スルコト
 - 三 身體衣服ヲ清潔ニシ過度ノ勞力露臥夜行等身體ヲ衰弱セシムル事項ヲ慎ムコト
 - 四 總テ熱性病ニ罹ルモノハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト
- 第二十八條 發疹室扶私患者續々發生スルトキハ市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スヘシ
- 一 醫師ヲシテ住民ノ家屋狹窄不潔ナル部落ヲ巡診セシムルコト
 - 二 患者アル家ニ近接セル各家ニ大掃除ヲ爲サシムルコト
- 第二十九條 前條ノ場合ニ於テハ醫師市町村吏員等ヲ以テ適宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシムヘシ
- 痘 瘡
- 第三十條 痘瘡又ハ之ニ疑似セル患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヘシ
- 一 患者ノ外未痘兒ハ勿論再三種ヲ了レルモ種痘後五年以上ヲ經タルモノハ臨時ニ種痘ヲ爲スコト
 - 二 患者ノ外ニ兒童アルトキハ成ルヘク兒童ヲキ他家ニ避ケシメ兩シテ其兒童小學校幼稚園ニ通フ者ナルトキハ三週間ヲ經ル迄登校入園ヲ止メ其旨ヲ小學校幼稚園ニ報告スルコト
 - 三 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外交通ヲ絶ツコト
 - 四 患者自宅ニ於テ消毒看病人履キ難キモノ及ヒ患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
 - 五 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ニス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
 - 六 患者ノ居室ニハ覆蓋アル壺等ヲ備ヘテ汚物ノ容器ト爲シ豫メ之ニ石炭酸水ヲ入レ置キ痘漿ヲ拭ヒタル布片紙片又ハ落屑及室内ノ塵埃等ハ必ラス此器中ニ入ルコト但シ器中ノ汚物ハ藪匏屑等ノ燃料ヲ加ヘ石炭油ヲ灌キテ之ヲ燒却スルコト
 - 七 看病人患者ノ居室ヲ出ツルトキハ先石炭酸水又ハ昇永水ヲ以テ充分ニ手ヲ洗ヒ更テニ淨水ニテ洗フ

コト

- 八 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ラニ石炭酸水ヲ澀キ所定ノ便所ニ移スコト
 - 九 患者ノ玩具飲食器等決シテ他ノ兒童ト共用セシメサルコト
 - 十 患者ノ用ヒタル衣服臥具敷物玩具飲食器看病人ノ衣服其他總テ痘漿ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト
 - 十一 患者ノ身體及痘漿ニ汚染セルモノニ蚊蠅等ノ集ラサル様注意スルコト
 - 十二 患者ノ痘漿落跡スルモ醫師ニ於テ全治ト認メ入浴換衣シタル後ニ非レハ他ノ兒童ニ交リ又ハ混浴ノ風呂屋ニ入浴セシムヘカラス
- 第三十一條 痘漿發生シタルトキハ衛生組合若クハ病家近傍ノ各家共同シ左ノ豫防法ヲ守ルヘシ**
- 一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲ササルコト
 - 二 未痘兒ハ勿論再三種ヲ了ルモ種痘後五年以上ヲ經タルモノハ臨時ニ種痘スルコト
 - 三 痘漿ニ疑ハシキ患者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト
- 第三十二條 痘漿患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ消毒法ノ施行ニ一層注意シ且種痘規則第三條ニ依リ臨時種痘ヲ普及セシムヘシ**
- 岡山縣告示第百号 明治廿六年九月廿六日
本年當縣令第五十二号ヲ以テ傳染病豫防心得ヲ相定メタルニ付キ該令ニ依リ施行スヘキ豫防消毒ノ方法及消毒藥ノ分量并ニ調製法等ハ渾テ左ノ通心得ヘシ

消毒法

傳染病毒ハ本體已ニ詳ナルアリ未ダ詳ナラサルアリト雖トモ要スルニ生蕃殖ノ機能ヲ具ヘタル一モ微細ノ有機體ナルハ疑ナク容レズ此有機體タル各病狀レモ其性狀ヲ異ニシ傳染ノ景況一ナラス例ヘハ虎列刺病毒ノ如キハ專ラ患者ノ吐瀉物中ニ舍リテ吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノヨリ傳染シ痘漿病毒ノ如キハ患者ノ身體居室內ノ空氣ヨリ又ハ痘癩痘漿及ヒ之ニ汚染セルモノヨリ傳染ス故ニ消毒法ノ實施ニ從事スル者ハ各病

ノ病性ヲ知リ此方法ニ依リテ火力蒸氣藥劑等總テ消毒ノ効力ヲ有スルモノ効用用法ヲ領得シ決シテ疎漏ノコトナカランコトヲ要ス

第一 火 力

凡ソ消毒法ハ烈火ヲ以テ燒燼スルヨリ安全ナルハナシ故ニ傳染病ノ死體及ヒ病毒ニ汚染スルコト甚シクシテ貴重ナル品ハ成ルヘク燒却スヘシ

第二 蒸氣附蒸沸

傳染病毒ハ攝氏百度以上ノ熱氣ニ逢フトキハ枯死スルモノナリ故ニ消毒後使用スヘキ物品ハ成ルヘク熱氣消毒器中ニ入レテ熱氣ノ内部ニ透徹シ易キ樣適宜ニ之ヲ排列シ通常衣服ノ類ニ於テハ三十分時間以上臥具ノ類ニ於テハ一時間以上ヲ經ル迄攝氏百度以上ノ熱氣ヲ周テ通シテ消毒スヘシ

熱氣消毒器ハ其構造宏大ニシテ寒濕僻地ニ設クルヲ得サルモノアリト雖トモ要スルニ攝氏百度以上ノ熱源ヲ以テ消毒スヘキ物品ヲ蒸沸スルヲ得ハ足レルカ故ニ簡易ノ裝置ニ依リテ同様ノ目的ヲ達センコトモ亦難キニアラス今其一法ヲ舉クレハ接合緊密ノ蓋ヲ有セル桶又ハ箱ヲ用ヒ底面ニ孔ヲ穿テ蒸氣ヲ導ク處ト爲シ之ヲ釜上ニ裝置シテ蒸氣ヲ通セシメ而シテ其蓋ニ一小孔ヲ穿テ寒暖計ヲ挿入シ攝氏百度ヲ表スルニ至ラシムヘシ此裝置タル甚ダ簡易ニシテ費用ヲ要スル少ナキカ故ニ如何ナル地方ニモ之ヲ設クルヲ得ヘク而シテ消毒ノ目的ハ充分ニ之ヲ達シ得ルモノナリトス又熱湯中ニ煮沸スルモ濕熱消毒法ト其理ヲ同フス故ニ市町村ニ於テハ煮沸ノ用ニ供スヘキ大釜ヲ備フルトキハ十分消毒ノ目的ヲ達シ得ヘシ但シ煮沸ハ三十分間以上ヲ持續セサレハ消毒ノ效全カラストス

第三 藥 劑

甲 石炭酸水(二十倍) 結晶石炭酸 五分
水 九十五分

石炭酸水ハ各種ノ傳染病毒ヲ撲滅スルノ力アリテ効用甚廣シト雖モ其價格高貴ナルヲ以テ消毒費ヲ增多スルノ憂アリ故ニ成ルヘク他ノ消毒藥ニテ消毒ヲ爲シ難キモノ(例ヘハ石灰乳ヲ用ユレハ光澤ヲ損シ昇

汞水ヲ用フレハ危險ノ虞アル等）其他主トシテ用フヘキ消毒藥ノ飲乏セル場合ニノミ使用スヘシ

一 本品ヲ以テ衣類等ヲ消毒スルニハ十二時間以上浸漬シ其後淨水ヲ以テ更ニ洗濯スヘシ

二 本品ヲ以テ器具室内ヲ消毒スルニハ拭淨又ハ撒布シテ後淨水ヲ以テ更ニ拭淨スヘシ

三 本品ヲ以テ手足ヲ消毒スルニハ先ツ本品ヲ以テ洗ヒタル後淨水ヲ以テ洗淨スヘシ

本品ヲ製スルニハ先ツ石炭酸十分ニ水大約一分ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツ、徐々ニ水ヲ注キ全量二百分ニ

至ラシムヘシ温湯ヲ用ユレハ其溶解殊ニ速カナリ但衣類等ニ使用スルヲ除キ其他ノ場合ニ於テハ更ニ攪

酸若クハ酒石酸四分ヲ加ヘ使用スルトキハ其効著シトス

乙 昇汞水 (千倍) 昇汞一分、鹽酸四分、水九百九十四分

昇汞水ハ價廉ニシテ消毒ノ効著シキモ猛毒ニシテ無色無臭ナルカ爲メ危險ヲ招キ易キ虞アリ故ニ貯藏使

用ノ際十分ノ注意ヲ加ヘ又危險ヲ防カン爲メ本品百分ニ硫酸銅一分ヲ加ヘテ藍色ト爲スカ又ハ昇汞ノ効

ヲ失ハサル色素ヲ加ヘテ着色シ一見識別シ易カラシムルヲ要ス

糞尿中ノ成分ニ逢フトキハ分解又ハ凝結シテ其効力ヲ失フノ虞アルヲ以テ金屬製器糞便及吐瀉物ノ消毒

ニ用フヘカラス又金屬製器ニ貯フヘカラス

本品ヲ以テ手足ヲ消毒シ又ハ消毒後使用スヘキ物ニ消毒シタルトキハ必ス淨水ヲ以テ數回洗淨スヘシ

甲乙兩種ノ消毒藥ニハ「劇シキ藥ナリ飲ムヘカラス」ト票記スヘシ

丙 生石灰 (十倍) 水 九分

生石灰及石灰乳ハ虎列刺、胸壁扶私、赤痢等ノ病毒ヲ消滅スルノ効力アルモノナレハ吐出物、瀉下物、下水

等ノ消毒ニハ總テ之ヲ使用スルヲ良トス

生石灰又ハ石灰乳ヲ以テ吐出物瀉下物ヲ消毒スルニハ之ヲ入レ能ク攪拌スヘシ

生石灰ハ石灰石ヲ燒キ製シタル塊ニシテ少量ノ水ヲ灌ケハ熱ヲ發シ崩壞スルモノヲ用フヘシ又石灰乳ヲ

製スルニハ一分ノ生石灰ヲ取リ九分ノ水ヲ加ヘ能ク攪拌スヘシ但石灰乳ハ成ルヘク用ユ臨ミテ之ヲ製シ

使用ノ際ハ毎回能ク攪拌スルヲ要ス

丁 格魯兒石灰水 (即チ鹽化石灰水二十倍) 格魯兒石灰 五分、水十五分

格魯兒石灰水ハ便所、下水、糞溜、床、床下及十間等ノ消毒ニ用フ

本品ハ用ニ臨ンテ製スルヲ可トス

戊 硫酸若クハ粗製硫酸 (同量ノ水ニ溶解シタルモノ)

硫酸若クハ粗製硫酸ハ石灰乳、石炭酸水等ノ作用品トシテ糞池、下水等ノ消毒ニ用フルヲ得ヘシ但シ本

品ハ強キ腐蝕性ヲ有スルヲ以テ之ヲ取扱フノ際能ク注意スヘシ

本品ヲ以テ糞池ヲ消毒スルニハ糞便ト同量ノ本品ヲ注イテ攪拌スヘシ (本品ヲ糞池ニ入ルレハ糞便沸騰

シテ溢流スルノ恐アルヲ以テ其糞便多量ナル場合ニハ其幾分ヲ他器ニ分テテ各別ニ消毒スルヲ可トス又

本品ハ漆喰鐵金屬製器ヲ損傷スルノ恐アルヲ以テ糞池ノ周邊漆喰ナルトキハ消毒ノ際特ニ注意シ又金

屬製ニ容ルヘカラス)

本品ヲ製スルニハ五十分ノ水ヲ取リ絶ニス其水ヲ攪拌シツ、注意シテ徐々ニ硫酸若クハ粗製硫酸五十分

ヲ注加シ製スヘシ決シテ硫酸中ニ水ヲ注加スヘカラス

第一患 消毒ノ方法

傳染病者治癒シタルトキ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ全身ヲ拭淨シタル後直チニ浴ヲ取ラシムヘシ

第二 死 體

傳染病者ノ死體ハ其被服ニ消毒藥ヲ撒布シテ棺内ニ歛ムヘシ但シ成ルヘク火葬スルヲ良シトス

第三 看病人其他病家ノ家人等

看病人其他病毒ニ汚染シタル病家ノ家人消毒法ノ施行ニ從事シタル吏員人夫等ハ手足ヲ石炭酸水又ハ昇

汞水ニテ消毒スヘシ但看病人吏員人夫等ハ豫メ爪ヲ切り其間ニ污垢ナキ様注意シ置クヘシ

第四 患者死體等運搬器

患者死體等ヲ運搬シタル担籠、釣籃、尸板ハ使用ノ都度用テク昇汞水又ハ石炭酸水ヲ灌クヘシ

第五 便所、井溜、下水等

虎列刺患者ノ吐瀉物、腸壁扶私赤痢患者ノ瀉下物ノ入りタル便所ノ糞池、大糞池、肥料溜等ニ少クモ糞便ノ量十分一ノ石灰乳若ハ格魯兒石灰水(此用ハ最低度ヲ示シタルモノナレハ多キニ過クルハ固ヨリ妨ケナシ)ヲ澁キテ能ク攪拌シ其周圍ノ地面ニモ周テ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ但シ此消毒法ヲ施行シタル糞池肥料溜等ノ糞便ニシテ爾後新タニ患者ノ吐出物又ハ瀉下物ヲ混入セサルトキハ一週間ノ後普通ノ糞便同様肥料ニ供スルモ妨ケナク又其便所ハ消毒後之ニ通フモ妨ケナシ虎列刺患者吐瀉セル土間ニハ其部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ澁キ吐瀉物ト共ニ表面ノ土ヲ掘リ取りテ之ヲ人家遠隔ノ地ニ埋ムルカ成ルヘクハ焼却シ其跡ニ尙右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ虎列刺患者ノ吐瀉物ヲ投棄シタル井溜ニハ其部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ撒布シタル後塵芥ヲ盡ク取除キテ燒却シ其跡ニ尙右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ

第六 衣服、器具、疊、敷物等

虎列刺患者ノ吐瀉物ヲ混入シタル下水溝ニハ生石灰、石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ澁キテ能ク攪拌シタル後多量ノ水ヲ澁テ疏通セシムヘシ

一 傳染病者ノ着用セル衣服及ヒ患者ノ用ニ供シタル臥具、蚊帳、飲食器、藥用品、玩具其他患者ノ居室内ニ在リタル諸器具ノ類

一 看病人其他病者ニ汚染セル病家ノ家人、消毒法ノ施行ニ従事セシ吏員、人夫等ノ着用セル衣服及手巾、足袋、靴、草履等

一 患者ノ居室内ニ用サタル疊、蓆、敷物等ニシテ消毒ノ必要ヲ認メタルモノ

右ノ内衣服、臥具、蚊帳、等總テ織物、綿ノ類ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ但シ汚染甚シク且高價ナラサル品ハ成ルヘク燒却スルヲ良シトス

一 濕熱(消毒スヘキ物品ニ應シ攝氏ノ百度以上ノ熱氣ヲ三十分乃至一時間以上周テ通セシム)

二 煮沸(熱湯中ニ三十分時間以上煮沸ス)

三 石炭酸水浸漬(石炭酸水中ニ十二時間以上浸漬シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗濯ス)

四 昇汞水浸漬(昇汞水中ニ十二時間以上浸漬シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗濯ス)

鑰器、金屬製器ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ

一 石炭酸水拭淨 (石炭酸水ヲ以テ拭淨シタル後更ニ淨水ヲ以テ拭淨ス)

二 乾布拭淨 (屢々乾布ヲ交換シテ内外面ヲ能ク拭擦シ其乾布ハ速ニ燒却ス)

其他ハ濕熱、煮沸、石炭酸水、昇汞水等ノ浸漬ヲ用フ但シ昇汞水ハ金屬製器ニ用フヘカラス

木製器ニハ前二項ニ依リ行フヘシ但シ汚染甚シク且高價ナラサル品ハ成ルヘク燒却スルヲ良シトス

漆器ニハ石炭酸水又ハ乾布ヲ拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ

革製品ニハ石炭酸水ノ拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ

疊蓆、絨、緞通ノ類ハ石炭酸水ヲ撒布シ然ル後日光大氣ニ曝シ乾燥セシムヘシ但シ汚染甚シキモノ(例之ハ患者吐出物、瀉下物ノ浸潤セルモノ虎列刺、發疹室扶私、痘疹患者ノ病室内ニ敷キアリタルモノ、類)ハ燒却スヘシ

第七 患者ノ居室

傳染病者ノ居室其他消毒必要ト認メタル室ハ先ツ室内ノ疊、敷物ヲ揚ケ(此疊敷物ノ消毒ハ前項ニ據ルヘシ)室内各部床及床下ヲ掃除シテ其塵芥ヲ燒却シ(床及床下ニ吐瀉物滲漏セルトキハ石灰水若クハ格魯兒石灰水ヲ充分ニ撒注スヘシ)掃除後昇汞水又ハ石炭酸水ヲ以テ室内各部ヲ叮嚀ニ拭淨スヘシ

第八 瀉車

右ノ消毒法ヲ了レル後ハ日光ノ射入空氣ノ流通ヲ良クシ室内ノ全ク乾燥スル迄家人ノ起居ヲ爲サシメサルヲ可トス但シ雨天ノ日ニ於テハ火氣ヲ以テ乾燥セシムヘシ

虎列刺患者アリタル瀉車ノ車室ハ先ツ吐瀉物ヲシテ汎ク散漫セシメサル爲メ石灰、石炭酸、灰、砂、鋸屑等ヲ撒布シ之ヲ取り除キテ燒却シ車内ノ消毒ハ前項患者居室ノ消毒法ニ準スヘシ但シ車室ニ附屬スル便所ハ石灰乳又ハ石炭酸水ヲ以テ消毒ス可シ

第九 船

傳染病アリタル船舶ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ

但其船舶ハ消毒ヲ行フニ先チ人家及ヒ他ノ船舶ニ隔リタル所ニ廻航セシムルヲ要ス

- 一 患者アリタル船舶ハ先ツ室内ノ臥具、戸張、敷物等ヲ取除キ第六項ニ依リテ消毒シ室内各部ヲ掃除シ
- 次ニ昇水又ハ石炭酸水ヲ周テ室内ニ撒布シテ後水ヲ以テ叩き洗淨シ爲シ得ヘキタケ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ良クシ室内ノ全ク乾燥スル迄船客ヲ入ルヘカラス但時宜ニ依リテハ火氣ヲ以テ乾燥セシムヘシ
- 一 患者アリタル室ノ外ト雖トモ病毒汚染ノ疑アル場所及不潔ノ場所ハ水ヲ以テ洗淨スヘシ
- 一 虎列刺ニ於テハ前二項ノ外尙ホ左ノ方法ヲ行フヘシ
- 一 患者ノ上リタル便所ハ石灰乳又ハ石炭酸水ヲ撒布シテ後水ヲ以テ充分洗滌スヘシ
- 一 吐瀉物滲漏ノ虞アルトキハ消毒藥ヲ澁キ船底ニ滲留セル汚水ヲ排除シタル後水ヲ以テ之ヲ洗滌スヘシ

一 船中ノ飲用水ハ新鮮ノ良水ト交換シ其際充分ニ其貯器ヲ洗滌スヘシ

訓令乙第三拾四號 明治二十七年五月三十日

郡 役 所 町 村 役 場

赤痢病豫防ニ關シ今回内務大臣ヨリ訓令ノ趣モアリタルニ付差向キ左ノ條項ヲ設備シ豫防ノ實績ヲ收ムル

- 一 郡書記中公衆衛生ノ事ニ通曉シ及豫防消毒法ノ施行ニ經驗アルモノヲ一名乃至二名特選シ赤痢病豫防主任ト爲シ其ノ官姓名ヲ届出ヘシ
- 一 但シ豫防主任ノ官姓名ハ所在地警察署長及分署長ニ通知シ置クヘシ
- 一 赤痢病豫防主任ハ町村ノ赤痢病ニ對スル豫防消毒ノ施行ヲ視察監督スヘシ
- 一 赤痢病豫防主任ハ豫メ醫會等ト氣脈ヲ通シ該病者ノ届出ヲ迅速ナラシムヘシ

- 一 町村ニ避病院若ハ隔離室ヲ豫備シ患者發生シ該患者ノ家屋他ニ傳播ノ虞レアリ又ハ貧家ニシテ他ノ家トト同室ナル場合ハ流行ノ兆アラサルモ避病院又ハ隔離室ニ移轉セシムルヲ要ス
- 一 避病院ハ町村ノ狀況一町村ノ資力ニテ設備シ難キ場合ハ二町村以上協同設備スルモ苦シカラス
- 一 但シ此ノ場合ニ於テハ其協同區域ハ避病院ヲ相距ル凡ソ二里以内トス
- 一 避病院ニハ患者三十人乃至五十人ヲ入院セシムルノ規模トシ醫員ハ患者二十五人ニ對シ一名看護人ハ全十八人ニ對シ一名ノ割合ヲ以テ雇入レ豫約ヲ要ス
- 一 但シ醫員ハ成規ノ試験ヲ受ケ又ハ官公立學校卒業シタルモノニ限ル
- 一 町村ハ赤痢病流行セントスルニ際シ消毒藥及消毒器具便器ヲ備ヘ置クハ勿論不潔物取捨等ニ使役スル人夫雇入ヲ豫約シ置クヲ要ス

訓令乙第三拾六號 明治二十七年五月三十日

郡 市 役 所 町 村 役 場

廣東及香港ニ於テ目下流行スル傳染病ベスト(黑死病)ハ最モ可懼傳染病ニシテ其ノ劇烈ナル虎列刺ニ比シ尙ホ一層ノ甚キ惡性ニテ夫レニ對シテハ内地各要所ニ於テハ船舶檢疫既ニ施行セラレツ、アレトモ何時侵入スルヤモ測リ難キニ付自然該病ニ罹リタル者ハ未タ病性ノ原因治療ノ方法共ニ明カナラサルモ先ツ以テ明治十三年布告第三十四號傳染病豫防規則中ニ條ニ遵據シ速ニ届出テ初發患者ニ就キ豫防消毒ヲ十全ニシ隔離ヲ嚴行シ他ニ傳染セシメサルコト急務ニテ隔離ノ効ハ空カテサル由ニ付一戸ニ發セハ一戸一町村ニ發セハ一町村ヲ直ニ流行地ト爲シ夫レト隔離往來ヲ絶ツノ心掛ケアルヘシ其ノ豫防消毒法ハ差向キ左ノ各項ニ依リ取扱フヘシ

- 一 患者ノ排泄物及其汚穢物ハ其ノ運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運搬シ燒棄若ハ埋却セシムヘシ
- 一 但シ本項ハ豫メ準備ヲ爲シ置クヘシ
- 一 二死屍ハ其ノ埋葬地ヲ區別シ蓋リニ雜葬セシムヘカラス
- 一 三患者ニ用キタル臥具衣服器具及病室船室等ハ消毒法ヲ行フニアラサレハ再ヒ之ヲ用キ又ハ受授賣買セシ

但シ臥具衣服器具等ノ患者身軀ニ直接シタルモノハ可成焼却ヲ要ス

四患者若ハ死屍ヲ載セタル車輿又ハ汚穢物等運搬器具ハ使用シタル毎ニ消毒法ヲ行フニアラザレハ再用シ若ハ他用ニ供スベカラズ

五該病流行ノ際ニハ井泉河流水道及廁園并溜下水溝渠等總テ病毒萌生ノ因トナルベキ場所ニ注意シ消毒的清潔法ヲ施スベシ

六患者發生シタルトキハ郡市町村衛生主務吏員ハ速ニ病家ニ臨ミ警察官吏ト俱ニ豫防消毒法ヲ行フベシ

七患者治癒又ハ死亡シタルトキハ郡市町村衛生主務吏員ハ警察官吏ト俱ニ患者ノ身軀、若ハ死屍、看病人、患者ノ居室、其ノ他病毒ニ汚染セル衣服器具等ニ消毒法ヲ行フベシ

八患者發生及治療死亡シタルトキハ明治十八年(十月)當縣中第五号傳染病患者届方醫師心得ヲ適用シ迅速ニ届出ヲ爲シムベシ

九消毒法ノ實施ニ從事シタル吏員及ヒ人夫等ハ其ノ都度消毒法ヲ行フベシ

十派車又ハ船舶ニ於テ患者ヲ生シ或ハ患者若ハ死屍ヲ發見シタルトキハ郡市町村衛生主務吏員ハ車長又ハ船長ト協議シ警察官吏ト俱ニ明治廿六年(九月)當縣告示第百号消毒法第八項第九項ニ依リ相當豫防消毒法ヲ施スベシ

十一郡市町村衛生主務吏員ニ於テ疑患者ト認メタル場合ハ醫師ヲシテ診察セシメ尙ホ判定シ難キニ於テハ速ニ其ノ病狀ヲ詳記シ處分方縣廳ヘ伺出ツベシ

但シ此ノ場合ニ於テハ先ツ相當豫防消毒ノ處置ヲ爲スヲ要ス
十二前各項ノ外尙ホ明治二十六年(九月)當縣令第五十二号傳染病豫防心得「虎列判」被診室扶私」ノ各條項(前各項ニ記載セサルモノ)及ヒ全年告示第百号消毒法ヲ適用スベシ
訓令乙第四十二號 明治二十七年八月十三日

郡市役所 町村役場

目下流行ノ赤痢病豫防消毒ノ心得並其ノ方法等ニ關シテハ明治二十六年九月本縣令第五十二號及同告示第百号ノ通知得取扱フヘキハ勿論ノ處今左ニ其ノ要ヲ摘シ概テ舉ケテ通曉ニ便ナラシメ且取扱ノ肯綮ニ中ラシトトテ欲ス宜ク彼此参照シテ遵行シテ豫防消毒ノ實ヲ舉ケ速ニ撲滅ニ歸セシムルコトヲ勉ムヘシ

赤痢病豫防消毒ニ關スル要項

第一項 赤痢病ノ症候ハ下痢(初メ水様、後チ粘液及血液ヲ混ユ)裏急後重、大腸ノ腫脹及疼痛、發熱等ヲ主要ナルモノトス而シテ病毒ハ糞便中ニ含ルモノニシテ其侵入門ハ口即チ消化器ナリ空氣ノ媒介ニ依テ呼吸器及其他ヨリ侵入スルモノニアラズ

第二項 流行地ニ住居スル者ノ飲食物ハ必ス煮沸シタル後用ニキキハ勿論食器モ亦一旦煮沸シタル湯或ハ之ヲ冷却シタル水ヲ以テ洗浄セサルベカラズ

第三項 蚊蠅ハ病毒ヲ媒介スルノ虞アルモノナレバ患者ノ身體就便及之ニ汚染セル物ニ蚊蠅ノ來集セサル様注意スルコト緊要ナリ(糞圃ニテモ蚊蠅ヲ用ニルヲ長トス但或便ニ觸接セザル様注意スベシ)故ニ蚊蠅ハ可及的殺却シ又飲食物及其容器ハ總テ充分ニ被蓋シ蚊蠅ノ留マラサル様注意スベシ

第四項 手指其他ノ部分ニシテ患者ノ身體就便及之ニ汚染セル物ニ觸接シタルトキハ二十倍ノ石炭酸(避病院其他充分ノ監督者アル場所ニ於テハ十倍ノ昇水水ヲ用ニルモ妨ケナシ)中ニ浸漬シ然ル後煮沸シタル水(其都度之ヲ取換フベシ)ニシテ洗浄シ新ナル白紙ニテ之ヲ拭フベシ

第五項 患者ノ糞便ヲ消毒スルコトハ最緊要ナリ是ニハ糞便量ニ對スル五分一以上ノ石灰(乳液体多生石灰ヲ用ニルモ妨ケナシ)ヲ混和シ攪拌シ(但俄人細末石灰ヲ使用スルトキハ生石灰ノ三倍量ヲ要ス)次チ特ニ製造シタル葉鉄又ハ金屬製箱ノ内ニ於テ三十分間以上煮沸スベシ

但患者ノ糞便ヲ取扱フ者ハ特ニ手足等ヲ消毒スルコト第四項ニ從フベシ又生石灰ハ大理石若クハ石灰石等ヲ燒キ炭酸性ノ分子ヲ除キタルモノニシテ少量ノ水ヲ澆ケハ熱ヲ發シ沸騰スルモノナリ

第六項 糞便ノ汚染セル布片又ハ病毒附着ノ虞アル草履草鞋等ハ必ス燒棄スベシ
若シ右ノ布片ヲ再用セシト欲スルトキハ三十分間以上煮沸シタル後清水ヲ以テ充分ニ洗滌スベシ

第七項 患者及看病人ノ衣服及蚊帳ハ三十分間以上煮沸シ蒲團其他煮沸ニ便ナラザル物ハ百度以上ノ蒸汽ヲ以テ四十分間以上消毒スヘシ

第八項 患者若シ死亡シタルトキハ其死體ハ火葬トナスヘシ 若シ火葬トナスコト能ハザル事情アルトキハ該死體ヲ覆フハ木棺、木桶ノ内ニ納メ之ニ石灰ヲ充填シテ埋葬スヘシ

第九項 患者全癒又ハ死亡若クハ避病院ニ送リタル後ハ該患者ノ居室ハ勿論床下ノ如キモ亦消毒清浄スルコト緊要ナリ此際建具及天井等ノ消毒ニハ十倍ノ昇水ヲ使用スルヲ便宜トス

井溜及床下ノ塵芥ヲ取除キ焼却シタル後其跡ニ撒布スル石灰ハ厚徑五分以上タルヘシ

患者ノ上リタル便所若クハ其跡ヒアル便所ハ第五項ニ依リ處置ヲ爲シ尙ホ糞池ノ周圍ハ勿論便所内外戸壁踏板天井等ニ至ル迄遺漏ナク石灰乳又昇水ヲ以テ(戸天井等ハ昇水ヲ用ニヘシ)細密ニ拭淨スヘシ

第十項 病家ノ井戸ハ勿論其近傍ニ在ル井戸ニ對シテハ周圍ニ在ル汚泥ヲ浚掘スルノヨミ止メズ井戸中ニ生石灰ヲ投入シ充分攪拌シ尙ホ其水ヲ以テ井戸側ヲ洗滌シタル後該水ノ清澄ニシテ石灰質ヲ含有セザルニ至ル迄數回汲ミ換テ爲スヘシ

第十一項 患者宅地内及其周圍ノ溝渠井ノ下水溜等ハ塵芥惡水等ノ停滯セザル様浚掘シ其汚泥ハ充分石灰ヲ撒布シ障害ナキ場所ニ棄却スヘシ

第十二項 第五項第七項第八項及第十一項ノ實行時期スルカ爲メ之ニ要スル器具等ハ可成市町村ニ於テ設備シ人夫ハ必ラス市町村之ヲ準備シ置クヘシ

岡山縣告示第五十七號 明治廿八年三月卅一日

醫師ニ於テ吐瀉ノ二症ヲ兼備フル病ヲ診斷シタルトキハ明治十六年十月當縣甲第五号遊傳染病患者届出方醫師心得ニ據リ速ニ届出ヘシ

訓令乙第二十號 明治二十八年五月十一日

那市役所 町村役場

清潔法ノ件ニ付屢次差示置キタル次第モ有之傳染病豫防上特リ之ヲ人民各自ノ義務ニ委スヘカラス市町村ニ於テハ明治廿七年(二月)勅令第十四號第一條ノ旨モ之レアリ之レカ責ニ任スルハ勿論傳染病流行ノ虞アルニ當テハ殊ニ周到ノ措置ヲ要スルニ付那市吏員ニ於テハ警察官吏ト熟議ノ上各戸ノ清潔法モ一齊ニ左ノ諸項ニ準シ實行セシメ尙ホ衛生主任ノ書記ヲシテ監督セシムヘシ

市町村 清潔法

一 市町村ハ其市町村内ノ清潔ヲ保護スルノ方法順序ヲ定メ之カ施行ノ責ニ任スヘシ

二 溝渠下水汚水溜等ハ浚掘掃除ヲ爲シ其疏通ヲ良クシ若シ破損ノ箇所アルトキハ修繕ヲ加フヘシ但傳染病流行時ニアリテハ妄リニ溝渠下水等ヲ攪擾スヘカラス

三 溝渠下水ノ汚水ヲ汲ミ取り道路ニ撒布スヘカラス

溝渠下水ノ必要アリテ未ダ其設ケナキ場所ハ速ニ之ヲ布設スヘシ

吸込下水ハ可成之ヲ埋却シ更ニ疏通ノ設ケヲナスヘシ

四 公衆用ノ便所ハ每週二回以上之ヲ汲ミ取り溢流ヲ防キ糞池及周圍ニハ適當ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ

但市町村内戸口密集シ特ニ病毒萌生ノ虞アル場所ニ於ケル共同便所(總雪陰)モ之ニ準ス

五 塵芥及汚物ハ散逸漏泄ノ虞ナキ容器ヲ用ヒ各戸ニ就キ每週二回以上集收シ一定ノ場所ニ運搬シ更ニ衛生上無害ノ地ニ棄却シ若クハ焼却スヘシ

但旅人宿飲食店寄席劇場貸座敷上乗場等ノ如キ衆人群集ノ場所ニ於テハ一層周密ノ方法ヲ設クヘシ

六 飲料水及使用水ノ近傍ハ常に注意ヲ加ヘ汚水ノ滲透汚物混入等ノ虞ナカラシメ且ツ此際井戸浚ヘテ爲シ可成濾過シテ飲料ニ供セシムヘシ

七 市町村内戸口密集シ特ニ病毒萌生ノ疑アル部分ハ傳染病豫防心得書中虎列刺ノ部第五條ニ準シ消毒的清潔法ヲ施行スヘシ

八 傳染病流行ニ際シ病毒潜伏ノ疑アル溝渠下水便所井溜等ニハ相當ノ消毒藥ヲ投入シ嚴重ニ清潔法ヲ行

九 前數項ハ町村等ニシテ人家稠密ナラサル地ニアラハ之ヲ參酌施行スルコトヲ得
訓令乙第二十二號 明治二十八年五月十五日 郡市役所 町村役場

今般傳染病患者ノ救療并ニ消毒ノ指示其他衛生事務ニ從事セシムル爲メ各郡へ醫師一名宛漸次配置候等ニ
付テハ市町村ニ於テモ此際豫メ相當醫師ヲ定メ當廳ニ企畫ト相待テ豫防ノ目的ヲ達シ候様殊ニ注意スヘシ
右訓令ス

屍 體 解 剖

岡山縣令第二十八號 明治二十二年二月十四日

屍 體 解 剖 規 則 左ノ通相定ム

但第三高等中學校醫學部ニ願出ツルモノハ此規則外タルヘシ

屍 體 解 剖 規 則

第一條 人 屍 體 解 剖 ノ 執 行 ハ 醫 學 校 又 ハ 公 立 病 院 ニ 從 事 ス ル 醫 師 醫 術 開 業 免 狀 ナ 所 持 ノ 者 ニ ア ラザレハ之
ヲ 許 サ ス

第二條 凡 患 者 ニ シ テ 治 癒 シ 得 ヲ 得 コ ト ナ 覺 悟 シ 死 後 患 部 解 剖 希 望 ス ル 者 ハ 第 一 條 ニ 拘 ケ タ ル 者 ニ 協 議 シ
其 承 諾 シ 得 テ 該 解 剖 負 擔 願 ト 共 ニ 解 剖 願 ヲ 差 出 ス ヘ シ

第三條 典 獄 ハ 刑 死 者 及 ビ 刑 期 中 死 亡 者 ニ シ テ 引 取 入 ナ キ 屍 體 ア ル 所 ハ 解 剖 學 研 究 ノ 爲 メ 官 立 醫 學 校 及
病 院 ヨ リ 該 屍 體 ヲ 解 剖 セ シ コ ト ナ 請 求 ス ル 所 ハ 知 事 ノ 認 可 シ 得 テ 之 ナ 交 付 ス ヘ シ

第四條 前 條 ノ 屍 體 ヲ 受 ケ 解 剖 シ 施 行 シ タ ル 上 ハ 其 屍 體 ヲ 經 理 シ 原 形 ニ 復 シ 司 獄 官 引 渡 ス ヘ シ

第五條 病 屍 死 後 解 剖 願 ハ 左 ノ 書 式 ニ 據 ル ヘ シ

(書式) 死後解剖願

廿一年縣令
第六十四號
廿五年縣令
第十三號
以テ加添ス

私儀兼テ何病(又ハ難病)ニ罹リ種々治療ヲ加ヘ候得共治癒ノ目的無之ト存候ニ付病理研究一助ノ爲メ(醫學校長公私立病院院長又ハ開業醫某)ニ依頼シ死後解剖相受度即チ親戚連署(若シ親戚無之ハ常人)ノ上此與奉願候也

何國何郡(區)何町(村)何番邸
(寄留ナレハ本籍共ニ記入スヘシ)
族 氏 名 印

右親戚
何國何郡(區)何町(村)何番地
(寄留ナレハ本籍共ニ記載スヘシ)
族 籍 長 姓 名 印

何國何郡(區)何町(村)何番地
(寄留ナレハ本籍共ニ記載スヘシ)
族 籍 長 姓 名 印

何國何郡(區)何町(村)何番地
(寄留ナレハ本籍共ニ記載スヘシ)
族 籍 長 姓 名 印

右ノ者豫テ治療能ハ在候處治癒ノ目的無之ヲ以テ今般別紙ノ通り死後解剖出願候ニ付病理研究ノ爲メ御成規ニ依リ解剖施行致度候間即チ本人病歷書相添此段奉願候也

年 月 日
醫學校長公私立病院院長又ハ開業醫ナレハ住所記入スヘシ
長 姓 名 印
戶 長 姓 名 印
醫學校長公立病院院長ニ係ル所長連署要セス

縣知事宛

前書願ノ返相違無之ニ付與書致シ進達候也

醫學校長公立病院長ニ係ルルハ與書要セス 姓名印

(書式)

病歴

何國何郡(區)何町(村)何番地
(寄留ナレハ本籍共記入スヘシ)
族籍 職業 姓名 年 名 印

一病名(病名)ノ判然セサルモノハ記載ニ及ハス

一發病前後ノ履歴及治療措置ノ頓末詳細ニ記載スヘシ
醫學校長公立病院醫又ハ開業醫

姓名 名 印

第六條 生前ニ於テ解剖願ヲ開届シタルハ本縣病院醫ヲ派出シ解剖負擔者ニ臨床講議ヲ爲シ死後解剖ノ節
再ヒ之ヲ派出シ解剖ノ順序診斷當否等ヲ説明スヘシ

第七條 難患奇症ニ罹リ死亡シタル者アリテ死後其親戚ヨリ解剖ヲ願出ツルハ之ヲ許可スルコトアルヘシ
第八條 解剖許可ヲ得タルハ其負擔者ハ成メク各地開業醫ニ告知シ生前診斷ヲ行ヒ病理ヲ研究シ且ツ死
後解剖ノルニ於テモ參觀セシムルヲ要トス

但醫學學校及公立病院ニ於テ解剖スルモノハ此限ニアラス

第九條 解剖許可ノ患者死亡シタルトキハ解剖負擔者ヨリ解剖スヘキ場所時日ヲ期シ知事及所轄郡區長警
察署長或ハ分署長ニ届出スヘシ

第十條 解剖ハ死後二十四時間ヲ經過スルニアラサレバ之ヲ行フコトヲ許サズ

第十一條 解剖ヲ終リタルハ(刑除ノ死骸ニ係ル者ハ第四條ニ依ル)其剖檢シタル筋肉皮膚骨等ハ悉ク原位
ニ納メ皮膚ヲ縫理シ總テ原形ニ復シ其遺族ニ還付シ又ハ解剖負擔者ヨリ埋葬又ハ穴葬スヘシ

第十二條 解剖施行ノ節衛生官吏郡區書記警察官等ノ臨場スルコトアルヘシ

第十三條 解剖施行後ハ派出醫員共其事ヲ作リ知事ニ差出スヘシ

衛生雜則

甲第四十四号 明治十年四月廿六日

河豚ノ儀ハ從來有海タルコト人ノ能ク知ル所ナレトモ殊ニ沿海村々ニ於テハ其味ノ甘キヲ稱シマ、食スル
モノ往々有之假令死ヲ免カル、モ或ハ多少ノ疾苦ニ罹リ人身ノ健康ヲ害スルハ勿論概テ此毒ニ中リ死スル
モノ有之趣右ハ兼テ御禁制ノ阿片煙ト同似ノ魚類ニテ最モ有害ノモノニ付人民ニ於テモ自今決シテ食用ニ
供スヘカラス又ハ漁業生魚世ヲ營ムモノハ必ラス販賣致問敢此旨諭達候事

甲第拾號 明治十二年一月廿四日

飲食物ノ中毒及ヒ藥物ノ誤用等ニヨリ死ヲ致スモノ有之節ハ其毒物ノ品名中毒ノ症狀并死ニ者ノ住所職業
姓名年齡等詳記シ施治醫ノ診斷書相添其都度可届出此旨布達候事

甲第百四十八号 明治十二年九月二十二日

近頃美作國(西北條東南條)兩郡地方俗間ニ於テ漢名穢體子種名カルトソウ(一名十字草)ノ草實ヲ(三年
ガシ)ト云ヒ何病ヲ驗セヌ心下痞便スル者ニ効能アルト誤認シ間ニハ醫ニ計ラズシテ妄リニ服用シ暴吐瀉
ヲ發シ夫レカ爲メ死ヲ致ス者有之故ニ相聞以テノ外ノ事ニ候醫則藥用ノ外私ニ相用候儀堅ク禁止候條此旨
布達候事

甲第百十五号 明治十三年二月十日

人家稠密ノ市街村落ニ於テ惡水拔キ及淨集等ヲ浚鑿シ泥土ヲ其儲路邊ニ堆積シ又ハ乾固スルヲ待テ他處ニ
運搬候者往々有之趣右ハ獨リ自家ノ健康ヲ害スルノミナラス衆庶ノ衛生上妨害不勘儀ニ付浚鑿ノ際直ニ人
家隔絶ノ場所ニ取リ棄候様可致此旨諭達候事

甲第百四十号 明治十三年十月九日

今般市街掃除規則及市街便所規則別紙ノ通相定メ候條此旨布達候事

二十三年十月十日
二十二年六月十日
二十四年六月十日
二十五年六月十日
二十六年六月十日
二十七年六月十日
二十八年六月十日
二十九年六月十日
三十年六月十日
三十一年六月十日
三十二年六月十日
三十三年六月十日
三十四年六月十日
三十五年六月十日
三十六年六月十日
三十七年六月十日
三十八年六月十日
三十九年六月十日
四十年六月十日
四十一年六月十日
四十二年六月十日
四十三年六月十日
四十四年六月十日
四十五年六月十日
四十六年六月十日
四十七年六月十日
四十八年六月十日
四十九年六月十日
五十年六月十日

但此規則ニ抵觸スル從前ノ布達及指令等ハ總テ消滅ト心得ヘシ

市街便所規則

第一條 街頭便所ハ該町村(岡山區ヲ除ク)ノ所管トナシ修繕及新設等渾テ其協議ニ任スルモノトス最モ新設ノ時ハ其場所并建物ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ出願スヘシ

但各村落中比屋連亘市街ノ体ヲナシタル箇所ハ本文ニ準ス

第二條 街頭ノ便所ハ必ス受負人ヲ定メ其尿ヲシテ滿溢セサル様取扱ハシムヘシ

但受負人該便所ヘ住所姓名ヲ票記スヘシ

第三條 新設ノ便所ハ成ルヘシ左ノ方法ヲ以テ構造スヘシ

但在來ノ分ハ向後修繕ノ節本文ニ依ルヘシ

一 尿尿器ハ緻密ノ陶製ヲ用ニルヲ善トス若シ陶器ヲ用ヒサル時ハ油樽ヲ用ニルカ厚板ヲ以テ堅固ニ之ヲ製スヘシ

二 尿尿器ノ周圍ハ漆喰ニテ之レヲ製シ排泄物ヲシテ能ク器内ニ流下セシムルヲ要ス

三 便所ノ周圍ハ板又ハ塀ヲ以テ他ヘ見透サル様構造スヘシ

第四條 尿尿器ノ周圍ハ時々清水ヲ以テ洗滌シ清潔ヲラシムヘシ

第五條 尿尿ヲ運搬スベキ桶ハ極メテ堅固ニ製造シ蓋ヲ以テ密閉シ臭氣漏洩ヲ防キ尿尿ヲシテ路上ニ漏出セシムヘカラス

第六條 夜中尿尿桶ヲ運搬スルトキハ必ス提燈ヲ携フヘシ

第七條 傳染病流行ノ際ニ當ツテハ別ニ其取扱方ヲ告示スルコトアルヘシ

第八條 受負人ノ怠慢ニ依リ不潔ヲ生シタルトキハ警察官吏ニ於テ他人ヲ雇ヒ尿尿汲取掃除ヲ爲サシメ其

費金ヲ徴收スルコトアルヘシ

第九條 街頭便所受負人ノ外一般尿尿汲取人ニ於テ此規則第五條第六條ヲ遵守スヘシ

第十條 若シ便所ノ修繕スヘキモノアルカ又ハ新設スヘキ場所アリト見認ルトキハ官署ヨリ之ヲ指揮スル

コトアルヘシ

第十一條 此規則第一條第四條第五條第六條第九條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十六條第四項ニ依リ處分スヘシ

乙第五十八号

明治十三年十月十八日

郡區役所 戶長役場

飲食物ノ中毒及ヒ藥物ノ誤用等ニ據リ中毒若シハ死亡ノ者有之節ハ其毒物ノ判然不判然ヲ問ハス其品質變以セサル様(アルコホール)又ハ(グリスリン)ニ浸漬スル等適宜防腐ノ方法ヲ設ケ其現品并ニ患者死者ノ症狀住所姓名等詳記取願メ可届出此旨相達候事

甲第二百号

明治十四年十一月廿五日

明治十三年(十月)當縣甲第四百十号ヲ以テ布達及ヒ置候市街掃除規則ハ來ル十五年一月一日ヨリ相廢シ更ニ掃除心得左ノ通相定メ候條此旨布達候事

掃除心得

一 掃除ハ左ノ區別ニ從ヒ負擔シ可成早朝ニナシ行人ノ妨害ナラザル様注意スヘシ

一 道路ハ地主地借店借テ間ハズ總テ現在接近邸地ノ居住人ニテ負擔スヘシ

二 家屋兩側ニアル道路ハ之ヲ折半シテ各自ニ負擔シ其片側ニアルモノハ全路ヲ負擔スヘシ

三 橋梁ハ其接近ノ町村ニ於テ適宜ノ持場ヲ定メ負擔スヘシ

四 辻見世商人等ハ其營業セル場所ヲ負擔スヘシ

五 空屋及空地ノ周圍ハ其家主地主ノ負擔タルヘシ

六 溝渠浚鑿等ハ其接近居住人ノ負擔タルヘシ

七 受負人ヲ定メタル町村ノ道路溝渠等ハ渾テ受負人ノ負擔タルヘシ

一 道路ヲ掃除シタル塵芥汚物取棄場ハ該町村ノ便宜ニヨリ適當ノ地所ヲ選ビ之ヲ設ケ置ヘシ但此地所若シ官地ニ係ル時ハ繪圖面ヲ添ヘ郡區役所ヲ經由シテ縣廳ヘ願出スヘシ

一 溝渠ヲ浚鑿シタル淤泥汚物等ハ人家遠隔ノ地ニ搬出スルカ又ハ之ヲ埋没スベシ
但其地所官地ニ係ルルハ前條但書ニ同シ
乙第三十四號 明治十五年五月二十二日

郡區役所 戶長 役場
町村衛生委員

惡病流行ノ際赤貧患者ニテ醫療ヲ請フノ資力ナク夫レカ爲メ豫防消毒ノ時機ヲ失ヒ候テハ病毒ヲシテ倍益
延セシムルノ恐有之候ニ付自今右等ノ者ニ限リ左ノ項目ニ應シ地方稅ノ内ヲ以テ救濟可致候條精々治療救
治ノ方法行届候様可取計尤モ救濟金下渡願ノ儀ハ篤ト其事實ヲ調査シ萬止ムナキ者ニ限リ郡區役所ヲ經テ
縣廳へ可願出此旨相達候事
救濟費目及金額

- 一金三十拾錢
- 一金拾八錢
- 一金拾五錢
- 一金壹圓五拾錢
- 一金拾五錢
- 一金三十拾錢
- 一金壹圓
- 一金六拾錢
- 一金九拾錢

計金五圓八錢

告示第八拾號 明治十五年六月二十七日
近來練紅ト稱スル一種ノ製紅ヲ用ヒ其價ノ廉ナルヲ以テ菓子其他ノ食物ヲ着色スル者有之ニ付該品試驗ヲ

- 醫員へ診察料
- 治療藥(三分一日平均六錢)
- 消毒藥(三分一日平均五錢)
- 蒲團疊衣類等買上費
- 汚穢物假拾人足一人分
- 避難院入院附料其他雜費
- 一切三分一日拾錢
- 埋火葬一切ノ費用
- 棺
- 人足三人壹人平均三拾錢

透候處右ハ(コーシン)ヲ以テ製造シタルモノニテ人身ニ害アルモノ有之候條該品ヲ以テ飲食物ニ着色致
問敷此旨告示候事

十四年八月廿二日 飲食物及玩弄物ニ着色ノ繪具
甲第四百四十号 藥料品目
十六年八月七日 警察ノ部ヲ看ヨ
乙第七十六号 醫師及產婆ノ部ヲ看ヨ
廿二年五月十一日 衛生試驗所ニ於テ検査手数料及検査出願順序
告示第三十七号 岡山縣令第二十六号 明治二十年四月十四日 病院及醫學校ヲ看ヨ
日常民間ノ實況ニ就キ衛生法ヲ普及セシメンカ爲町村衛生組合ヲ定ムルハ最モ必要ノ儀ニ付左ノ準則ニ據
リ便宜之ヲ設クヘシ 衛生組合準則

- 第一條 衛生法ノ實行ニ便ナラシメンカ爲町村衛生組合ヲ設ケルモノトス
- 第二條 衛生組合ハ五戸以上三十戸以内トス
- 第三條 衛生組合區域ハ町村ノ情況ニ依リ戶長(區ハ區長)ニ於テ適宜之ヲ定ムヘシ
- 第四條 衛生組合内ヨリ組頭壹名ヲ公選セシムヘシ
但其投票ハ戶長(區ハ區長)ニ差出ス可シ
- 第五條 戶長(區ハ區長)ハ其投票ヲ調査シ高點者ヲ組頭ニ定ムヘシ
- 第六條 衛生組頭ノ任期ハ滿二年トナスヘシ
但前任者ヲ再選スルヲ得
- 第七條 組頭タルヲ得ヘキモノハ滿二十年以上ノ男子ニシテ其組合内ニ本籍ヲ定ムルモノトシ其選舉者ハ
本籍寄留ヲ問ハス其組合内ニ居住スルモノトス
- 第八條 衛生組頭ハ俸給ナシ
但組合内ノ申合ヲ以テ報酬スルハ適宜タルヘシ

第九條 衛生組頭ノ責任左ノ如シ

- 一 時々組合内各戸ヲ巡回シ家宅及近傍ノ通路下水便所并溜等ノ清潔法ヲ施行セシムルコト
 - 二 飲料水ノ不良ナルモノハ之ヲ用サシムヘカラス并戸構造破壊セシカ其近傍不潔汚水滞留スル等ノ如キハ之ヲ改修若シハ疏通セシムルコト
 - 三 種痘ノ季節ニ於テハ懇切説諭シ偏シ接種セシムルコト
 - 四 傳染病アルトキハ其豫防攝生法ノ普及ヲ計リ勉メテ隠蔽ノ弊ナキ様注意スルコト
 - 五 衛生法ヲ遵守セサルモノアルハ丁罪ニ之ヲ説諭シ尚ホ肯ンセザル者ハ戸長(區ハ區長)ニ申出ルコト
- 第十條 組合内又ハ其近傍ニ傳染病發生シタルハ其組合内ハ勿論隣接ノ組頭ニ謀リ相互ニ豫防攝生法ニ注意スヘシ
- 第十一條 組合ニ於テ貧困者ノ疾病ニ罹リ藥餌ノ供給ニ差支アルモノハ之ヲ供給スルノ方法ヲ謀ルヘシ
- 第十二條 此組合ヲ設置シタルハ戸長ヨリ郡區役所ヲ經テ(區ハ區長)ヨリ縣知事ニ届出ツヘシ
- 訓令乙第二十八号 明治廿八年六月二十六日

郡市役所 町村役場

傳染病豫防救治ニ従事スル市町村吏員ニシテ專ラ該病者又ハ病毒汚染ノ虞アル物品ニ接近スルモノニハ本年(六月)敕令第七十一号ニ准據シ市町村役所ヲ以テ手當ヲ給スルコトヲ得

岡山縣令第二十六号 明治廿八年八月十三日

惡疫流行ニ付多衆集會スルハ病毒媒介ノ虞アルヲ以テ所轄警察署又ハ警察分署長ニ於テ其實況ニ依リ諸興行入場ノ人員及興行時間ヲ制限シ又ハ興行ヲ停止スルコトアルヘシ

郡市役所 戸長役場

明治廿年(四月)岡山縣令第二十六号衛生組合ノ儀ハ日常ニ在テ個人相互ノ攝生ヲ計リ隣保救援シ民福ノ増進ヲ企圖スルハ勿論其一朝傳染病ノ流行ニ際シテハ市町村ノ機關トナリ畫策措置以テ豫防消毒ニ従事ス

ヘキハ當然ノ責務ニ有之候處既往ノ狀況ニ徴スルニ組合ニシテ是等實行ノ成績甚ク其組合ハ徒ニ形式的ニ流シ殆ソト有名無實ノ觀モ有之遺憾ノ至ニ候條將來ニ在テハ督責獎勵以テ其組合設置ノ本旨ニ違ハサラシムコトヲ期セシムヘシ

